

# ひまわりキッズガーデン大原 2026年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

## 1. 基本情報

### (1) 所在地

東京都板橋区大原町13番1号

### (2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。  
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

### (3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の  
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。  
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語  
り合う」「認め合う」場をつくります。

### (4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

## 2. 前年度振り返り・課題

### (1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 期末)
全体	36名	36名	36名	0名	0名	0名
0歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
1歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
2歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
3歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
4歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
5歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名

### (2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	18名	21名	1名	4名	(1名)
保育士	15名	16名	1名	2名	(1名)
幼稚園教諭	0名	0名	0名	0名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育補助	1名	3名	0名	2名	(0名)
用務	0名	0名	0名	0名	(0名)
事務	1名	1名	0名	0名	(0名)

### (3) 前年度目標と振り返り

#### ① 保育活動

##### 目標

- ・各主任が4つの視点を理解し、月案に反映できるようにする。
- ・職員全員が主任会議の内容を理解し、実践に活かせるようにする。

##### 振り返り・課題

今年度は、主任が4つの視点を理解し、それを月案へ反映できるようにすることを目標として取り組んでまいりました。主任会議では月案をより深く検討し、その内容を職員へ共有する流れが定着してきております。会議での分析内容を受け、職員が保育計画を作成する際の視点が明確になり、計画自体もその月に必要な活動が分かりやすい形で整理されるようになりました。

また、保育計画に対する実践状況を把握するため、日々の日誌から実行率を算出する仕組みを導入いたしました。この取り組みにより、計画と実践のズレが見えやすくなり、実行率が伸びなかった項目を翌月の改善に活かす循環も生まれています。職員一人ひとりが、自身の保育を振り返る機会を得ることにつながり、保育の質を高める姿勢が徐々に浸透してきました。

目標として掲げた「主任会議内容の共有」についても、職員が会議内容を日々の実践に結びつける場面が増えてきており、組織として保育方針をそろえていく基盤づくりが進んだ一年となりました。

来年度は、今年度の取り組みで築いた基盤をさらに発展させ、主任だけでなく職員全体が4つの視点をより深く理解し、保育計画や日々の実践に一貫して反映できる体制づくりが課題となります。

特に、主任会議で議論した内容の伝達方法をさらに工夫し、職員が「どのように自分のクラスで活かすか」をイメージしやすい共有方法へ改善してまいります。実行率の算出についても、データをどのように振り返りへ結びつけるかを見直し、改善につながる分析力の向上が必要となります。

また、計画と実践の循環をより自然に回せるよう、職員が日誌・計画・実践のつながりを理解し、自主的に改善を進められる環境づくりを進めてまいります。組織全体として保育の質向上を目指すため、主任の支援体制の強化や、職員間での学び合いの機会も増やしていく予定です。

#### ② 職員の処遇

##### 目標

- ・職員がスキルアップできるような、パートナー制度を確立する
- ・保育士のスキル（音楽、絵画、運動など）を標準化し、具体的な目標を設定（例：音符が読めるようになる、ピアノの特定の曲を弾ける）

##### 振り返り・課題

今年度は、職員がスキルアップできるようパートナー制度の確立と、保育士の専門スキルを標準化し具体的な目標を設定することを目標として進めてまいりました。

パートナー制度では、毎週月曜日の30分を使い、パートナー同士で悩みや気づきを共有する時間を設けました。この時間は、保育士一人ひとりが自身のスキルや良いところを認め合う場となり、職員からは「心にゆとりが持てるようになった」「話しやすくなり助け合いが自然にできるようになった」といった声も増えております。結果として、職員同士

の関係性がより良好になり、協力し合えるチームづくりにつながりました。また、スキルの標準化に向けて、ピアノ・手遊びなど各分野で具体的な目標を示すことで、職員が自身の課題を明確にできるようになりました。この見通しの持ちやすさから、勤務後に自主的にスキル練習に取り組む職員も増えており、学び続ける姿勢が職場全体に広がっております。

以上の取り組みにより、職員のメンタル面・専門性の両面で前進が見られた一年となりました。

来年度は、リーダー層が主体的にチームを導く存在として成長できるよう、必要なスキルアップを目指してまいります。さらに、職員一人ひとりがより広い視野を持てるよう、外部研修や内部研修の取り入れ方も工夫し、学びの幅を広げていくことを課題としております。こうした取り組みを通して、園全体の専門性を継続的に高めていく体制づくりを進めてまいります。

### ③ 運営管理

#### 目標

- ・施設全体で共通の目標に向かって進むための基盤を整える。
- ・3園間の交流を通じて、情報共有と連携を強化する。

#### 振り返り・課題

今年度は、施設全体で共通の目標に向かって進むための基盤づくりと、3園間の交流を通じた情報共有・連携強化を目標として取り組んでまいりました。

3園の職員会議を共同開催したことで、園を越えた情報交流がスムーズになり、保育の悩みを担任クラス別に話し合える機会を生み出すことができました。この取り組みは、他園の考え方や実践を知るきっかけとなり、職員同士がお互いから学び合う姿勢にもつながっております。

また、新しい視点や保育方法に挑戦できる環境を整えるため、人材面・物的環境の両面で充実化を図りました。新しい活動に必要な物品を揃えるなど、保育者が「やってみたい」と思った時に実行しやすい環境を整えたことで、現場に前向きな空気が生まれております。以上のように、園全体で共通目標へ向かうための土台づくりが進み、3園の連携も前年より一歩前進した一年となりました。

来年度は、3園間の会議体や交流機会をより実践的に活かし、各園で生まれた新しい取り組みを共有し合いながら、組織全体の保育の質向上につなげてまいります。また、共通の目標に向かうための基盤をさらに強めるため、園ごとの課題を明確にし、必要に応じて支援体制を整えていくことも課題となります。

新しい保育に挑戦できる環境づくりについては、今年度整備した物的・人的資源を活用しつつ、職員が主体的にアイデアを試せるような風土をさらに育ててまいります。職員間での学びがより継続的に循環し、3園が相互に刺激し合える関係性を築くことを目指して取り組みを進めてまいります。

## 3. 施設運営

### (1) 当年度目標

#### ① 保育活動 全体

・職員全体が4つの視点を深く理解し、保育計画・実践・日誌のつながりを踏まえて自主的に改善へつなげられる体制を整備する。

・組織全体の保育の質を高めるため、主任の支援体制を強め、職員同士が学び合う場を拡充する。計画と実践の循環が自然に機能するよう、職員の成長を促す環境づくりを進める。

① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
0 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安定した生活リズムと身近な大人との信頼関係をもとに、人との関わりを喜び、心身の健やかな成長を育む。</li> <li>・ 安心できる環境の中で、五感を使った体験を通し、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む。</li> </ul>
1 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む。</li> <li>・ 生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む。</li> </ul>
2 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己主張を十分に受け入れてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる。</li> <li>・ 大人に見守られながら意欲的に自分のことは自分でしようとする。</li> <li>・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地良さを味わう。</li> <li>・ 生活や遊びの中で、体を動かすことを十分に楽しむ</li> </ul>
3 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己主張しながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする。</li> <li>・ 生活や遊びの中に期待や見通しを持ち、自分のことは自分でしようとする。</li> <li>・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心地良さを味わう。</li> <li>・ 生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する。</li> </ul>
4 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする。</li> <li>・ できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける。</li> <li>・ 人の話に興味を持って聞いたり自分の体験したことや思っていることを話したりして、言葉で伝える楽しさを味わう。</li> <li>・ 様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題にあわせて意識して身体を動かすようになる。</li> </ul>
5 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一つの目的意識のもとに関係し合い、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向かって協力し、達成感や喜びを味わう。</li> <li>・ 身体や栄養、病気などに関心をもち、健康や安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に行動する。</li> <li>・ 体験したことや自分の思いを相手に分るように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる。</li> <li>・ 運動や遊具・用具を使用した活動を通し、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調節しようとする。</li> </ul>

## ② 職員の処遇

- ・リーダー層が主体的にチームを導く存在として成長できるよう、必要なスキルアップを進める。また、職員一人ひとりが広い視野を持てるよう、外部研修や内部研修の取り入れ方を工夫する。

- ・研修や学びを通して園全体の専門性を継続的に高める体制を整備し、組織として成長し続ける環境をつくる。

## ③ 運営管理

- ・3園間の会議体や交流機会を実践的に活かし、各園で生まれた新たな取り組みを共有することで、組織全体の保育の質向上につなげる。また、共通の目標に向かうために園ごとの課題を明確にし、必要に応じて支援体制を整える。

- ・新しい保育に挑戦できる環境づくりを進め、整備した物的・人的資源を活用しながら、職員が主体的にアイデアを試せる風土を育てる。さらに、職員間で学びが継続的に循環し、3園が相互に刺激し合える関係性を築く。

## (2) 実施施策

### ① 保育活動

#### 施策1

- ・リトルハグに基づいた活動（運動・制作・絵画・音楽・科学・文字・数など）の年間計画を整理し、子どもの小さな成長を実感できる活動を体系的に提供する。

- ・個別記録やICTを活用し、子どもの姿を具体的に可視化することで、職員全体が共通理解を持ちながら保育の質を高める。

- ・子どもの「できた」「やりたい」を引き出す環境設定や教材準備を整え、探究心を育てる保育を推進する。

### ② 職員の処遇

#### 施策1

- ・パートナー制度を深化させ、毎週の共有時間で悩みの整理・目標確認・承認を行い、メンタルの安定とスキル成長を両立させる。

- ・リーダー層の育成を強化し、研修や実践の場を通して、チームを導く力・観察力・フィードバック力を身につける。

- ・音楽・絵画・運動・ICTなどの専門スキルを段階的に習得できるよう、個別のスキル目標を設定し、達成に向けて練習・指導環境を整える。

- ・職員同士が学び合える園内研修や見学機会を増やし、多様な経験や視点が循環する職場づくりを進める。

### ③ 運営管理

#### 施策1

- ・園内の会議体（主任会議・クラス会議・標準化会議）を機能的に運用し、計画・振り返り・改善の流れが途切れずに循環する仕組みを整える。

- ・新しい保育に挑戦できるよう、物的・人的環境の拡充（教材・備品・研修・時間づくり）を進め、職員が安心してチャレンジできる職場環境をつくる。

### (3) 児童の処遇

#### ①クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
もも	0歳児	2名	6名	
たんぽぽ	1歳児	2名	6名	
ちゅうりっぷ	2歳児	1名	6名	
すみれ	3歳児	1名	6名	(要支援1名)
ゆり	4歳児	1名	6名	
ひまわり	5歳児	1名	6名	

#### ②月別保育予定日数

4月	・・・	25日
5月	・・・	23日
6月	・・・	26日
7月	・・・	26日
8月	・・・	25日
9月	・・・	23日
10月	・・・	26日
11月	・・・	23日
12月	・・・	24日
1月	・・・	23日
2月	・・・	22日
3月	・・・	26日
合計	・・・	292日

### (4) 健康管理

#### 健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

#### i. 日常養護・健康管理

- ・ 保育士、看護師による視診
- ・ 午睡時の検温、午睡後の巡回、睡眠中の観察（睡眠チェック）

#### ii. 病気の予防と早期発見

- ・ 日常の手洗いを励行。
- ・ アルコール使用し、玄関での手指消毒を行う。
- ・ 感染症発生時には掲示や配信にて注意を促す。

### iii. 安全と事故防止

- ・ 不審者対応として学校110番の設置
- ・ 警察署を招いて、不審者対応訓練を定期的に行う
- ・ 玄関ドアは常に施錠しモニターで確認、オートロック開閉
- ・ 家具などに転倒防止具を取り付け、角部分には保護ガードを貼る
- ・ SIDS予防（睡眠表による睡眠チェックを行う）  
0歳児5分おき、1～2歳児 10分おき、3～5歳児 15分おきに個別確認
- ・ 安全対策・記録カメラを設置し、保育中の安全対策を強化する。

### iv. 健康増進と保健指導

- ・ ほけんだよりにて健康情報や流行している感染症などについて発信する。
- ・ 手洗い、うがい、鼻のかみ方の指導
- ・ 0歳児は月に2回、1歳以上は月1回の身体測定を行い子どもの発育及び発達状態を定期的に把握する

### v. 環境衛生

- ・ 保育室の室温、湿度、換気、採光、騒音などの環境に配慮する。
- ・ 園舎内は電解水を用いて清掃、アルコール消毒実施。
- ・ 1歳以上はコットベッド、0歳児用午睡布団は丸洗いをう（年1回）
- ・ 害虫駆除（年2回）
- ・ 0歳児は毎日2回、1歳児以上は使用した遊具はその都度消毒を行なう。
- ・ トイレクリーニングの実施（年1回）
- ・ オゾン発生器の設置
- ・ 空気清浄機を各部屋に設置

### 年間保健行事

保健行事 対象年齢

- ・ 内科健診 0歳児（月1回）、1歳児以上（年2回）
- ・ 歯科検診 全園児（年2回）

### (5) 年間行事

#### 主な年間行事

- 月例行事 誕生日会(当日に行う)、避難訓練、身体測定
- 4月・・・入園・進級お祝い会、保護者会(全クラス)
  - 5月・・・こどもの日の集い、茨城県自然博物館（5歳児親子）
  - 6月・・・農業体験（5歳児）、個別面談
  - 7月・・・七夕会、個別面談、一日特別保育（5歳児）
  - 8月・・・水遊び
  - 9月・・・引き渡し訓練、敬老お祝い会、飯盒炊飯体験(5歳児親子)
  - 10月・・・合同運動会
  - 11月・・・個別面談（全園児）
  - 12月・・・お遊戯会、クリスマス会、もちつき会
  - 1月・・・お店屋さんごっこ
  - 2月・・・節分会、保護者会(0～4歳児)、お店屋さんごっこ
  - 3月・・・ひなまつり会、お別れ遠足、保護者会(5歳児)、お別れ会、卒園式

## (6) 食事

### i. 目標

「丈夫な体、豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども」  
食は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期にもっとも大切な栄養を豊かに摂取し、健康な身体作りをするとともに、食習慣を促し、生きる力の基礎を培う。

### ii. 栄養管理

献立会議に参加し、栄養摂取量を確認する。（献立会議月1回、食育会議月1回、離乳食・アレルギー食の打合わせは随時）

### iii. 食育

食育は毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しむあう子どもたちに成長していくことを期待するものである。そのために乳幼児には食域を広げ、子どもたちの食への興味を引き出すことを食育の目的とし「毎日食育」をベースに、企画する食育活動を加えて展開していく。

### iv. 衛生管理

日々日常点検表と業務完了届を通して実施状況を確認。

### v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳 未満児	465	17.5	15.5	213	2.0	188	0.20	0.28	18
3歳児 以上児	510	19.2	17.0	230	2.0	200	0.20	0.32	16

### vi. その他

初期食1食、中期食2食、後期食1食

## (7) 安全管理

### 安全管理目標

交通安全や避難訓練について記述し、訓練日を記載します。

交通安全教育：年1～2回 日付は未定

非常災害時の避難訓練（毎月1回）

引き渡し訓練（9月1日）

不審者訓練 年1～2回 日付は未定

## 4. 施設管理

### (1) 事務関係

#### ① 会計事務、管理事務

- ・施設における現金は経理規定に沿って管理を行う。
- ・現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行う。
- ・予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行う。

#### ② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行う。
- ・給食に関しては委託業者との契約を行い毎月の支払いとする。
- ・嘱託医への支払いは契約書をもとに行う。
- ・延長保育利用料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済

### (2) 設備関係

#### ① 固定遊具の設備点検

- 固定遊具なし・施設整備点検は毎月
- トイレクリーニングの実施
- エアコンクリーニングの実施

### (3) 備品関係

#### ① 備品購入予定

- 災害時使用電動自転車

#### ② 保育用品購入予定

- 絵本、玩具、運動用品、保育材料等

#### ③ 給食用品購入予定

- 食具、調理器具等、厨房機器の保守点検

#### ④ 固定資産物品購入予定

- 絵本棚

### (4) 災害対策

#### ① 避難訓練

- 年間12回実施（内1回は保護者参加の引渡し訓練）

#### ② 防災設備の点検委託

- 年間2回実施

#### ③ 非常食糧の備蓄

- （全児童＋全職員数）×3食×3日分
- 備蓄品の点検と追加購入、消費期限点検

## 5. 保護者へ向けて

### 保育への理解と協力の促進

#### ① 保育参加

一日保育士体験(基本的には随時)：保育士体験を行う。集団の中での子どもの様子を知り、保育内容への理解を深めてもらう機会とする。

#### ② 誕生会への参加

特にありません

#### ③ 保護者会

保護者懇談会(年2回程度実施)・・・園の保育の理解、子どもの姿、発達を知る。  
個別面談の実施(年2回程度)・・・園での子どもの様子、家庭での様子、子育て観の共有

#### ④ 通信(お便り)

園だより(月1回)・・・園全体や地域に関わる情報などを発信する。保健に関する内容、乳幼児期の食生活について園と家庭の架け橋となる内容などを発信する。

クラスだより(月1回)・・・年齢毎の発達、育児情報、お知らせ、お願いなどを発信する  
※上記おたよりやお知らせ等があった場合、教育施設向けICT支援ツール【コドモン】を使用して、連絡を行う。

#### ⑤ 第三者評価の実施

第三者評価の受審予定

## 6. 地域社会との連携

### 地域社会との連携に関する取り組み

- ・ 町会への加入
- ・ 近隣小学校との交流
- ・ 小学校の先生をお招きしての育児講座
- ・ 高齢者施設への月1回の訪問(今後の感染症の状況により実施)
- ・ 要保護児童対策地域協議会への出席
- ・ 近隣児童館との交流(予定)

## 7. その他

### その他取り組み

特にありません

# ひまわりキッズガーデン小茂根 2026年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

## 1. 基本情報

### (1) 所在地

東京都板橋区小茂根二丁目11番12号

### (2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。  
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

### (3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の  
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。  
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語  
り合う」「認め合う」場をつくります。

### (4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

## 2. 前年度振り返り・課題

### (1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 期末)
全体	60名	60名	61名	+1名	▲1名	+1名
0歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
1歳児	7名	7名	7名	0名	0名	+7名
2歳児	7名	7名	7名	0名	0名	+7名
3歳児	15名	14名	14名	0名	+1名	+14名
4歳児	15名	15名	14名	▲1名	+1名	+14名
5歳児	10名	10名	10名	0名	0名	+10名

### (2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	17名	17名	0名	0名	(0名)
保育士	14名	14名	0名	0名	(0名)
幼稚園教諭	0名	0名	0名	0名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育補助	1名	1名	0名	0名	(0名)
用務	0名	0名	0名	0名	(0名)
事務	1名	1名	0名	0名	(0名)

### (3) 前年度目標と振り返り

#### ① 保育活動

##### 目標

- ・子どもが経験すべき保育活動の提供
- ・地域活動のアップデート

##### 振り返り・課題

サービス領域（保育・地域連携）では、新たに仕組化した『保育計画』実行率が概ね目標水準に達し、計画にもとづく保育実践が安定化してきました。

すくわく（自然・造形）や散歩等の体験活動を通じて、利用者アンケートでは「家庭では得られない経験ができています」との評価が増加しており、保育の提供価値が保護者に適切に伝わっていることが確認できました。

また、「こもね食堂」をはじめとした地域活動の定着や動画配信等の発信強化により、地域住民との接点も広がりました。

一方で、園見学者アンケートからは、主体性を育む保育に対する認知は高まっているものの、異年齢保育や地域との育ち合いといった当園の特色については、十分に伝わっていない現状が明らかになり、次年度の課題として位置づけられました。

#### ② 職員の処遇

##### 目標

- ・正常な環境を保てる認識チェンジ

##### 振り返り・課題

職員領域（組織運営・業務標準化）では、5Sチェックの導入により、施設・設備・清潔さ・安全性に関する利用者評価が向上し、6月以降は総合満足度100%を維持する結果となりました。

LINE Worksを活用した気づき共有やパートナー面談の継続は、職員間の情報連携および改善行動の活性化に寄与しています。

一方で、5S運用や気づきの発信には職員間で差異が残っており、運用精度の均質化と仕組みの定着が次年度の重要な取り組みとなります。

#### ③ 運営管理

##### 目標

- ・組織内貢献意欲の維持向上

##### 振り返り・課題

リーダーシップの領域では、カタグルマシステムを活用した目標管理を本格的に運用し、主任・リーダーによる実践モデルの提示や、職員面談の体系化、乳幼児会議を通じた振り返りの仕組み化を進めました。

これにより、学びが実践へと結びつくプロセスが可視化され、組織としてのPDCAサイクルが従来より安定して運用されるようになりました。

また、職員の気づきを起点とした業務整理の取り組みが広がり、改善提案が園全体で共有されるようになったことは、組織内貢献意欲の向上に寄与した成果といえます。

### 3. 施設運営

#### (1) 当年度目標

##### ① 保育活動 全体

- ・利用者ニーズに沿った専門性のある保育内容の計画実践
- ・地域認知度アップと連携強化

##### ① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
0 歳児	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 安定した生活リズムと身近な大人との信頼関係をもとに、人との関わりを喜び、心身の健やかな成長を育む。</li><li>・ 安心できる環境の中で、五感を使った体験を通し、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む。</li></ul>
1 歳児	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む。</li><li>・ 生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む。</li></ul>
2 歳児	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる。</li><li>・ 大人に見守られながら意欲的に自分のことは自分でしようとする。</li><li>・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地良さを味わう。</li><li>・ 生活や遊びの中で、身体を動かすことを十分に楽しむ。</li></ul>
3 歳児	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自己主張をしながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする。</li><li>・ 生活や遊びの中に期待や見通しを持ち、自分のことは自分でしようとする。</li><li>・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有し、言葉を交わす心地良さを味わう。</li><li>・ 生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する。</li></ul>
4 歳児	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする。</li><li>・ できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける。</li><li>・ 人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう。</li><li>・ 様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる。</li></ul>
5 歳児	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 一つの目的意識のもとに関係し合い、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向って協力し、達成感や喜びを味わう。</li><li>・ 身体や栄養、病気などに関心を持ち、健康や安全など生活に必要な基本的な生活習慣や態度を身につけ見通しを持って主体的に行動する。</li><li>・ 体験したことや自分の思いを相手に分るように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる。</li><li>・ 運動や遊具・用具を使用した活動を通し、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整しようとする。</li></ul>

## ② 職員の処遇

職員の専門性と協働力の底上げ（＝組織力向上）

## ③ 運営管理

- ・保育内容の標準化と「体験価値」の強化
- ・地域連携の“戦略的アップデート”
- ・保護者と園の「協働運営」モデル定着

## (2) 実施施策

### ① 保育活動

#### 施策 1

- ・「保育計画」高実施率の維持
- ・保育実践のPDCAのうち“CA”の専門性強化

### ② 職員の処遇

#### 施策 1

- ・会議体の整理（クラス会議・リーダー会議）を通して参画意識の向上＝自分たちが運営を動かしている実感を高める

#### 施策 2

- ・OFFJT からOJTの標準化

### ③ 運営管理

#### 施策 1

- ・ニーズに応じた地域支援の充実
- ・大学等新たな連携先との協同、展開

#### 施策 2

- ・家庭、地域との双方向コミュニケーションによる運営展開を標準化

## (3) 児童の処遇

### ① クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
にじ	0歳児	2名	6名	
ほし	1歳児	2名	7名	
そら	2歳児	2名	7名	
もり	3歳児	2名	15名	要支援児1名
うみ	4歳児	1名	15名	要支援児1名
たいよう	5歳児	1名	15名	

## ②月別保育予定日数

4月	・・・	25日
5月	・・・	23日
6月	・・・	26日
7月	・・・	26日
8月	・・・	25日
9月	・・・	23日
10月	・・・	26日
11月	・・・	23日
12月	・・・	24日
1月	・・・	23日
2月	・・・	22日
3月	・・・	26日
合計	・・・	292日

## (4) 健康管理

### 健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

#### i. 日常養護・健康管理

- ・ 健康管理カード（コドモンアプリでの管理）をもとに個々の健康観察と管理
- ・ 看護師による日々の巡回と子どもの視診を定期的に行い健康状況の把握を行う。

#### ii. 病気の予防と早期発見

- ・ 園の玄関前にアルコールを置き、来訪者には除菌・消毒を行っていただき、入室頂く。
- ・ 感染症が発症した際には、掲示等で保護者へ知らせ注意を促す。

#### iii. 安全と事故防止

- ・ 学校110番の設置。
- ・ 家具等は転倒防止具をつける。柱、角の部分には保護ガードをつける。
- ・ 事故防止マニュアルを確認し、安全策を図る。
- ・ ヒヤリハット・メッセージグレードを全職員が把握。分析を行い再発防止に努める。
- ・ SIDSの防止（午睡時睡眠チェック0歳児5分毎、1、2歳児10分毎、3歳児以上15分毎）
- ・ 安全対策・記録カメラを設置し、保育中の安全対策を強化する。

#### iv. 健康増進と保健指導

- ・ 保健だよりを毎月発行し、健康情報や保健指導を行う。

#### v. 環境衛生

- ・ 害虫駆除は年に2回業者へ委託。
- ・ 午睡用布団の丸洗い、乾燥を定期的に行う。
- ・ 玩具消毒を電解水で行う。（感染流行期においてはアルコール使用）
- ・ 感染流行期には電解水またはアルコールを用いて室内清掃を行う。
- ・ 業者によるトイレクリーニングを年1回実施する。
- ・ オゾン発生装置、空気清浄機を使用し常に衛生的な空間を保つ。

## 年間保健行事

- 内科健診・・・0歳児（月1回）・1歳児以上（年2回）
- 耳鼻科健診・・・実施なし
- 眼科健診・・・実施なし
- 視力検査・・・実施なし
- 歯科健診・・・全園児年2回
- 尿検査・・・実施なし

## (5) 年間行事

### 主な年間行事

- 月例行事 誕生を祝う会
  - 4月・・・入園進級お祝い会・保護者会・子どもの日の集い
  - 5月・・・自然体験遠足（5歳児親子）
  - 6月・・・個別面談（全園児）、農業体験（5歳児）
  - 7月・・・七夕・農業体験（5歳児）・一日特別保育（5歳児）
  - 8月・・・卒園児交流
  - 9月・・・引渡し訓練・祖父母交流会・保護者会
- 10月・・・運動会
- 11月・・・自然体験遠足（5歳児親子）・個別面談（0～4歳）
- 12月・・・クリスマス会・餅つき会
  - 1月・・・個別面談（5歳）・おゆうぎ会
  - 2月・・・節分・保護者会（0～4歳）
  - 3月・・・ひなまつり・お別れ遠足・お別れ会・卒園式・5歳保護者会

## (6) 食事

### i. 目標

「丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども」  
食は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期にもっとも大切な栄養を豊かに摂取し、健康な身体作りをすると共に、食習慣を促し、生きる力の基礎を培う。

### ii. 栄養管理

献立会議に参加すること、及び栄養摂取量表で確認する。

### iii. 食育

食育は、毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみあう子どもに成長していくことを期待するものです。そのために乳幼児期は食域を広げ、子ども達の食への興味を引き出すことを食育の目的とし毎日食育をベースに、企画する食育活動を加えて展開します。食育会議を毎月開催。

### iv. 衛生管理

日々、日常点検表と業務完了届を通して実施状況を確認する。

v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー	蛋白質	脂質	カルシウム	鉄分	ビタミンA	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC
	kcal	g	g	mg	mg	μg	mg	mg	mg
3歳 未満児	465	17.5	15.5	213	2.0	188	0.20	0.28	18
3歳児 以上児	510	19.2	17.0	230	2.0	200	0.20	0.32	16

vi. その他

離乳食：初期食 1名 中期食 0名 後期食 3名 完了食 0名

アレルギー対応児：

1名（豆乳・魚類）

1名（乳）

1名（海老・蟹）

(7) 安全管理

安全管理目標

交通安全や避難訓練について記述し、訓練日を記載します。

交通安全教育 (4月・9月・3月)

非常災害時の避難訓練 (月1回)

引き渡し訓練 (9月1日)

不審者対応訓練 (年2回)

4. 施設管理

(1) 事務関係

① 会計事務、管理事務

- ・ 施設における現金の管理は経理規定に従って行う。
- ・ 現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行う。
- ・ 予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・ 毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行う。
- ・ 延長保育利用料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済。
- ・ 給食に関しては、委託業者との契約を行い毎月の支払いとする。
- ・ 嘱託医への支払いは契約書をもとに行う。

(2) 設備関係

① 固定遊具の設備点検

特になし

### (3) 備品関係

#### ① 備品購入予定

- ・ 避難車
- ・ 園児ロッカー
- ・ 玩具棚

#### ② 保育用品購入予定

- ・ 絵本・玩具・運動用品・保育教材等

#### ③ 給食用品購入予定

- ・ 食器・調理器具等

#### ④ 固定資産物品購入予定

- ・ 壁・床改修工事
- ・ クロス張替え工事
- ・ 屋上芝化工事

### (4) 災害対策

#### ① 避難訓練

- ・ 年間12回実施。(年1回保護者への引き渡し訓練実施)

#### ② 防災設備の点検委託

- ・ 防火設備点検：年間2回実施(9月・3月)
- ・ 消防設備点検：年間1回実施(未定)

#### ③ 非常食糧の備蓄

- (全児童+全職員数) × 3食 × 3日分
- 消費期限点検(4月・9月実施)

## 5. 保護者へ向けて

### 保育への理解と協力の促進

#### ① 保育参加

- ・ 子ども達が園でどの様に過ごしているのか、また、クラスでの様子(友達や保育士との関わり等)などを知ってもらうことや、保育の準備や片付け等保育士の仕事を体験してもらうことで、保育園への理解を深める為に保育参加への呼びかけを行っている。
- ・ 保護者の希望により、随時参加可能である。

#### ② 誕生会への参加

- ・ 月毎の誕生日会を行う。
  - ・ 更に子どもの誕生日当日または近い日に、その児だけの誕生会を行なう。
- 保護者には保育参加を通し、子どもの成長を実感してもらう。  
また、生まれた日などのエピソードや子どもへの感謝等を伝える日にして頂く。

#### ③ 保護者会

- ・ クラスの保護者会は年に3回開催。
- ・ クラスごとに行う。1年間の保育目標を伝え、子どもの発達の見通しを持ってもらう。アンケートや連絡帳から保護者が“今子育てで悩んでいる事”や“聴きたい内容”を分析し、テーマを決め開催する。

#### ④ 通信（お便り）

- ・ 月1回：園だより・保健だより・食育だよりを発行（コドモン配信）
- その他、行事やお知らせ等があった場合、コドモンを使用して連絡を行う。

#### ⑤ 第三者評価の実施

- ・ 第三者評価を受審予定

### 6. 地域社会との連携

#### 地域社会との連携に関する取り組み

- ・ 町会への加入。
- ・ 保育所体験、育児相談の実施。育児講座の開催。
- ・ 小中学校やあいキッズ（放課後事業）との交流。
- ・ 板橋区立小茂根図書館での作品展示、出張図書館での連携。地域へのお話会の共同開催。
- ・ 上二テラス SDG s こども食堂への参画。
- ・ 近隣保育園との交流。
- ・ 要保護児童対策地域協議会への出席

### 7. その他

#### その他取り組み

特になし

# ひまわりキッズガーデン東雲 2026年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

## 1. 基本情報

### (1) 所在地

東京都江東区東雲一丁目9番18-203号

### (2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。  
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

### (3) 保育方針

保育園に集うたくさんのお親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の  
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。  
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語  
り合う」「認め合う」場をつくりまします。

### (4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

## 2. 前年度振り返り・課題

### (1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	96名	88名	87名	▲1名	+9名	▲1名
0歳児	9名	9名	9名	0名	0名	+9名
1歳児	12名	11名	12名	+1名	0名	+12名
2歳児	15名	15名	14名	▲1名	+1名	+14名
3歳児	20名	18名	19名	+1名	+1名	+19名
4歳児	20名	19名	16名	▲3名	+4名	+16名
5歳児	20名	16名	17名	+1名	+3名	+17名

### (2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	22名	23名	3名	5名	(0名)
保育士	15名	15名	2名	2名	(0名)
幼稚園教諭	0名	0名	0名	0名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育補助	4名	4名	1名	2名	(0名)
用務	1名	1名	0名	0名	(0名)
事務	1名	2名	0名	1名	(0名)

### (3) 前年度目標と振り返り

#### ① 保育活動

##### 目標

子どもたちがやりたいことを見つけて意欲が育まれる保育の展開  
園児や職員が地域と関わる機会を増やす

##### 振り返り・課題

「やってみたい」「やってみよう」「できた」が実現する保育園をめざして、子どもの育ちを引き出す保育内容の多様化に取り組んだ。

湾岸地域の主任会議で月案の内容や活動を標準化したものを各クラスにおろし、領域に偏りなく活動や遊びが展開できるようにした。各クラス担任は、研修や自己研鑽によって学んだ内容を実践に活かして新たな保育内容に挑戦することにも努めた。定期的に保護者にアンケートを実施して、保育内容に対して保護者や子どもたちがどのような反応を示しているかを把握し、保護者や子どもたちの声を保育に反映できるようにした。これらの取り組みを通して、保育内容の多様化を進めることができたと感じている。今後は、子どもたちの意欲が”育ち”に繋がることができるよう、保育者の働きかけや関わり方を標準化していくことが課題と認識している。

地域活動は、地域の親子向け保育所体験を行うとともに、5歳児を中心として近隣のデイサービスや小学校1年生との関わりを持つことができた。地域向け保育者体験や、小学生向けの育児体験では多数の参加がみられた。アンケートでは、保育園での遊びや保育者の子どもへの関わりが参考になったという感想もいただいている。地域活動の定着と新たな取り組みも始めることができたので、次年度はさらに内容の充実を図ることで地域との関わりを深めていく。

#### ② 職員の処遇

##### 目標

個人のスキルアップをチーム力アップにつなげる

##### 振り返り・課題

2024年度の”研修等を通じた職員個人のスキルアップ”を土台に、2025年度は”個人のスキルを活かし職員同士協力し合うことでチーム力をアップする”に取り組んだ。若手やパート職員が多いというチーム編成から、経験年数の浅い職員が安心して働けるための基盤づくりを行った。毎月の職員会議では、保育・業務の基本を確認し共通認識のもとで仕事が進められるようにした。認識が定着したものもあるが、まだ理解にばらつきがあるものもあるため、基本の確認は継続して行っていくこととする。

#### ③ 運営管理

##### 目標

- ・職員同士がコミュニケーションを図り、連携できるチームづくり
- ・会議・打ち合わせ

職員会議（毎月月初に実施） …クラス・給食・看護・業務係からの報告連絡事項。園長・副園長からの連絡事項。園内研修。

パート会議（毎月職員会議後に実施） …職員会議（園内研修含む）の伝達 パート職員の意見の収集

クラス会議（第3週） …当月の課題を踏まえた次月の計画の確認と共有。次月週案の検討。行動基準の見直しと更新。

乳児会議・幼児会議（第3週目） …乳児・幼児全体の共通事項や情報の共有。ひまわりの考え方に基づく保育を行なうために、発達や内容についての話し合いを行なう。

標準化会議（第4週目） …実行計画進捗の確認（園における課題を認識し、意図に沿っ

た業務・保育の見直し・検討・提案を行う。)

職員会議の議事確認

昼礼 …午前中の子どもや保護者に関する事項の遅番への引継ぎ。怪我・体調・延長利用者確認・メッセージグレードとヒヤリハットの共有・園長・副園長からの伝達事項。

・研修計画

職員個別に研修計画を策定

行政主催の研修参加

保育団体主催の研修参加

外部講師・事業部による研修

園内研修

### 振り返り・課題

標準化会議（リーダー層によるチームの現状認識・課題の提起・発信・職員会議内容検討など）→職員会議→パート会議という会議体により、情報共有や課題解決を進めた。また昼礼の内容をノートに記載するだけでなく、タイムリーに各クラス携帯に配信することで情報がより迅速に流れて共有化することができた。引き続き、職員同士の報告連絡相談の仕組みづくりを整えた上で、必要に応じたコミュニケーションを図っていけるようにしていくようにしたい。

## 3. 施設運営

### (1) 当年度目標

#### ① 保育活動 全体

子どもの育ちにつながる遊び・活動を展開する～子どもの成長を促す環境（ヒト・モノ・事象）を整える

#### ① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
0歳児	・安定した生活リズムと身近な大人との信頼関係をもとに、人との関わりを喜び、心身の健やかな成長を育む ・安心できる環境の中で、五感を使った体験を通し、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む
1歳児	・保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む ・生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基盤となる力を育くむ
2歳児	・自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを知る ・大人に見守られながら意欲的に自分のことを自分でしようとする ・身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地よさを味わう ・生活や遊びの中で、体を動かすことを十分に楽しむ
3歳児	・自己主張しながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする ・生活や遊びに期待や見通しを持ち、自分のことを自分でしようとする ・身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心

	地よさを味わう ・生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する
4 歳児	・十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする ・できるように喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な生活習慣を身につける ・人の話に興味を持って話したり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう
5 歳児	・一つの目標意識のもとに関係しあい、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目標に向かって協力し、達成感や喜びを味わう ・身体や栄養・病気などに関心を持ち、健康や安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に活動する ・体験したことや自分の思いを相手に分かるように筋道を立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる。 ・運動や遊具・用具を使用した活動を通して、自己の身体像を確立し、自分の身体隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整使用とする。

## ② 職員の処遇

役割の認識と育成～階層の役割に応じた職務の遂行

## ③ 運営管理

人との繋がりが持てる保育園づくり（園児・保護者・地域・職員）

・会議/打ち合わせ

職員会議（毎月月初に実施） …クラス・給食・看護・業務係からの報告連絡事項。園長・副園長からの連絡事項。園内研修。

パート会議（毎月職員会議後に実施） …職員会議（園内研修含む）の伝達 パート職員の意見の収集

クラス会議（第3週） …当月の課題を踏まえた次月の計画の確認と共有。次月週案の検討。行動基準の見直しと更新。

乳児会議・幼児会議（第3週目） …乳児・幼児全体の共通事項や情報の共有。ひまわりの考え方に基づく保育を行なうために、発達や内容についての話し合いを行なう。

標準化会議（第4週目） …実行計画進捗の確認（園における課題を認識し、意図に沿った業務・保育の見直し・検討・提案を行う。）

職員会議の議事確認

昼礼 …午前中の子どもや保護者に関する事項の遅番への引継ぎ。怪我・体調・延長利用者確認・メッセージグレードとヒヤリハットの共有・園長・副園長からの伝達事項。

・研修計画

職員個別に研修計画を策定

行政主催の研修参加

保育団体主催の研修参加

外部講師・事業部による研修

園内研修

## (2) 実施施策

### ① 保育活動

#### 施策 1

各年齢のめざす姿を具体化し、子どもの姿に対して保育者がどのように働きかけることが成長に繋がるかを考え、実践する

#### 施策 2

子どもの育ちについて保護者に発信をしたり共有をしたりすることで、家庭と連携をしながら成長を促す

### ② 職員の処遇

#### 施策 1

各階層の役割を明確に示し、目標管理・面談を活用しながら職員が具体的な行動として実践できるようにする。

### ③ 運営管理

#### 施策 1

会議・昼礼等での職員同士の情報共有とコミュニケーションを密にする。現状課題の認識→改善策→実践→振り返りのPDCAを回す。

#### 施策 2

職員やチームの学びを自園・他園や地域とシェアする（合同研修・育児講座）

## (3) 児童の処遇

### ① クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
つき	0歳児	3名	9名	
ほし	1歳児	3名	12名	
そら	2歳児	3名	15名	
なみ	3歳児	2名	17名	
にじ	4歳児	1名	16名	
ひかり	5歳児	1名	17名	

### ② 月別保育予定日数

4月・・・25日

5月・・・23日

6月・・・26日

7月・・・26日

8月・・・25日

9月・・・23日

10月・・・26日

11月・・・24日

12月・・・24日

1月・・・23日

2月・・・22日

3月・・・26日

合計・・・293日

#### (4) 健康管理

##### 健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

##### i. 日常養護・健康管理

- ・登園時0歳児は園内で検温し、その日の健康状態を保護者保育士双方で確認し、お預かりする。1～5歳児は、登園時に健康状態を保護者に確認する。
- ・前日夜から当日の朝までのご家庭での様子は、連絡帳を通して家庭より引き継ぎをする。（0歳～2歳児は園での様子も連絡帳に記載）

##### ii. 病気の予防と早期発見

- ・感染症予防は手洗い・うがいが基本ととらえ、子ども達にも指導を行う。登園時には玄関入り口でアルコールにて手指消毒する。
- ・保護者・外部からの来訪者ともに、園内に入る際には玄関入り口でアルコール手指消毒をしていただく。
- ・感染症が発生した際には、保護者に掲示し感染防止に協力をお願いする。
- ・SIDSの予防の周知、睡眠チェックの徹底  
（0歳児：5分毎、1～2歳児：10分毎、3歳児～：15分毎）

##### iii. 安全と事故防止

- ・学校110番の設置。
- ・保護者は登録制の顔認証システムを導入。来訪者はインターホンとモニターで確認をしてから開錠する。
- ・家具等の転倒防止対策。
- ・安全計画をもとに、毎月安全に対する確認や共有を行う。
- ・安全委員会を中心に事故の防止に努める。ヒヤリハット、メッセージグレードを通して事例検討、再発防止を話し合い、対策を行なう。

##### iv. 健康増進と保健指導

- ・園医による歯磨き指導（年間1回）
- ・看護師による健康指導（手洗い・排便など、その他必要に応じて実施）
- ・年間で薄着を勧め、子ども達が自ら体温調節を行えるからだづくりを行う。

##### v. 環境衛生

- ・玄関での手指消毒の徹底
- ・遊具が子どもの口に入る事を考慮し消毒は薬品を使用せず、電解水（アルカリ水・酸性水）、消毒BOX（オゾン）を使用して玩具消毒を行う。
- ・手洗いはペーパータオルを使用。
- ・使用済みの紙オムツは、都度ビニール袋に入れて結び、蓋つきのゴミ箱の中で保管する。
- ・害虫駆除（年間2回）
- ・調理室グリストラップ清掃
- ・排水管高圧洗浄
- ・事業者による年1回のトイレクリーニング、エアコンクリーニングの実施。
- ・オゾン生成器、空気清浄機の設置

##### 年間保健行事

内科健診 0歳児（月1回）、1歳児以上（年2回）

耳鼻科健診 実施なし

眼科健診 実施なし

視力検査 4歳、5歳児（看護師による簡易検査を年2回）  
 歯科健診 年2回  
 尿検査 実施なし

## (5) 年間行事

### 主な年間行事

月例行事・・・0歳児健診、避難消火訓練、保育参加  
 4月・・・入園式、保護者会  
 5月・・・こどもの日、個別面談、田植え（4・5歳児）  
 6月・・・個別面談、水遊び開始  
 7月・・・七夕、1日特別保育（5歳児）、水遊び  
 8月・・・水遊び  
 9月・・・引き渡し訓練、保護者会、親子稲刈り遠足（4・5歳児）祖父母ふれあいデー  
 10月・・・親子遠足（3歳児）、乳児ふれあいデー  
 11月・・・個別面談（0～4歳児）、湾岸スポーツフェスティバル  
 12月・・・個別面談（0～4歳児）クリスマス、もちつき（鏡餅作り）  
 1月・・・幼児発表会  
 2月・・・節分、保護者会（0～4歳児）個別面談（5歳児）お別れ遠足（5歳児）  
 3月・・・ひな祭り、卒園式、お別れ会

## (6) 食事

### i. 目標

「丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども」  
 食は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期にもっとも大切な栄養を豊かに摂取し、健康な身体作りをすると共に、食習慣を促し、生きる力の基礎を培う。

### ii. 栄養管理

食育会議に参加すること、及び栄養摂取量表で確認する

### iii. 食育

食育は、毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べる事を楽しみ、食事を楽しみあう子どもに成長していく事を期待するものです。そのために乳幼児期には食域を広げ、子ども達の食への興味を引き出す事を食育の目的とし、毎日食育をベースに、企画する食育活動を加えて展開します。

### iv. 衛生管理

日々日常点検表と業務完了届を通して実施状況

### v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳未満児	465	17.5	15.5	213	2.0	188	0.20	0.28	18
3歳児以上児	510	19.2	17.0	230	2.0	200	0.20	0.32	16

#### vi. その他

離乳食 初期食2名 中期食2名 後期食5名  
アレルギー児5名

#### (7) 安全管理

##### 安全管理目標

安全計画をもとに毎月マニュアルや現状の確認を行うことで、利用者にとって安全で安心な保育園運営を行う

#### 4. 施設管理

##### (1) 事務関係

###### ① 会計事務、管理事務

- ・ 施設における現金は経理規定に沿って管理を行う。
- ・ 現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行う。
- ・ 予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

###### ② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・ 毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行う。
- ・ 延長保育利用料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済。
- ・ 給食に関しては委託事業者と契約を行い毎月の支払とする。
- ・ 嘱託医への支払いは契約書をもとに行う。

##### (2) 設備関係

###### ① 固定遊具の設備点検

固定遊具特になし  
施設整備点検は毎月行う

##### (3) 備品関係

###### ① 備品購入予定

- ・ 園児 散歩用帽子
- ・ 職員 食事介助用エプロン

###### ② 保育用品購入予定

- ・ 絵本、玩具、保育教材等

###### ③ 給食用品購入予定

- ・ 調理器具全般
- ・ 食器こども用

###### ④ 固定資産物品購入予定

- ・ 床上張工事

##### (4) 災害対策

###### ① 避難訓練

- ・ 年間12回実施（保護者参加の引き渡し訓練を1回実施）
- ・ 水害対策としてマンション上層階への避難訓練実施

###### ② 防災設備の点検委託

株式会社建防メイセイへ委託

年2回 消防設備点検実施（毎年7月・1月）

年1回 特殊建築物定期検査実施 ※3年に1回、2025年度実施済

年1回 防火対象物点検（毎年10月頃）

年1回 建築設備定期検査実施（10月頃）

年1回 防火設備点検（毎年6～翌年3月までの間）※東急コミュニティーによる実施

### ③ 非常食糧の備蓄

- ・（全園児＋全職員数）×3食×3日分
- ・消費期限点検（4月実施）

## 5. 保護者へ向けて

### 保育への理解と協力の促進

#### ① 保育参加

保育参加…園児の保護者を対象に保育参加を実施。子どもが園で過ごす姿を知っていただく。保育参加を通して、子どもの様子や他児との関わり、保育士との関わり等を見ていただき、ひまわりの保育への理解や連携及び問題点の共有、子育ての相談等を行う機会と捉える。

#### ② 誕生会への参加

誕生月の午後16：00～ 乳児はクラスごと 幼児は合同で誕生会に保護者参加

#### ③ 保護者会

全体の保護者会は4月と9月と2月、個別面談は5・6月と11月（0～4歳児）2月（5歳児）に実施。ひまわりの保育内容、子どもの姿・成長の発信を行なう。保護者の悩みや困りごとを把握し、子育ての協同に繋げる。

#### ④ 通信（お便り）

- ・園便り・クラス便り（毎月発行）その他必要があれば不定期で発行。園便りは毎月の行事、園の保育方針を盛り込んでの園長のコラム、その他お願い等。クラス便りは、各クラスの子どもの姿・保育者の関わり・成長を記載。
- ・保健便り（毎月発行）流行しそうな子どもの感染症に関する情報や、こども達の生活（睡眠時間、虫歯、視力等）に関する情報を記載。園全体の感染症予防を啓蒙。
- ・食育便り（毎月発行）ひまわりの食にもとづく子どもの姿や考え方を掲載。その他郷土料理や人気のレシピなども公開。

#### ⑤ 第三者評価の実施

第三者評価実施予定

## 6. 地域社会との連携

### 地域社会との連携に関する取り組み

地域活動（保育所体験・小学生の育児体験・育児講座）を企画し、地域の子育て支援の拠点となる。

姉妹園との交流・5歳児のデイサービス訪問・近隣の保育園や小学校との連携を図り、地域との繋がりの中で子どもたちの成長を育む。

## 7. その他

### その他取り組み

専門講師による活動（体操・英語・ダンス・造形）

# ひまわりキッズガーデン豊洲 2026年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

## 1. 基本情報

### (1) 所在地

東京都江東区豊洲四丁目11番20-138号

### (2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。  
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

### (3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の  
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。  
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語  
り合う」「認め合う」場をつくります。

### (4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

## 2. 前年度振り返り・課題

### (1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 期末)
全体	90名	86名	85名	▲1名	+5名	▲2名
0歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
1歳児	13名	13名	13名	0名	0名	+13名
2歳児	18名	17名	18名	+1名	0名	+18名
3歳児	18名	18名	18名	0名	0名	+18名
4歳児	18名	17名	16名	▲1名	+2名	+16名
5歳児	17名	15名	14名	▲1名	+3名	+14名

### (2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	24名	22名	3名	0名	(0名)
保育士	17名	18名	1名	0名	(0名)
幼稚園教諭	0名	0名	0名	0名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育補助	5名	2名	2名	0名	(0名)
用務	0名	0名	0名	0名	(0名)
事務	1名	1名	0名	0名	(0名)

### (3) 前年度目標と振り返り

#### ① 保育活動

##### 目標

- ・子どもの発達を理解し、その姿に合わせた保育活動の展開
- ・地域活動を広げていく

##### 振り返り・課題

- ・主任がエリアの主任と話し合いながら、計画を作り、それを現場に下ろすという事を通年行ってきた。保育者の保育の幅、歩育活動への意欲は職員・保護者・子どもと広がってきているものの、計画→実践→振り返り→次の活動という繋がりを持って考えられるようになる事が課題。
- ・地域との関わりにおいて、行事のタイミングでの関わりに偏り、継続的な交流には至りにくい。日常的に関わるにはどうしていくかを職員がそこも視野に入れられるような活動を考えていく。

#### ② 職員の処遇

##### 目標

- ・発達を理解した上での働きかけ
- ・歩育を通しての地域活動の充実

##### 振り返り・課題

- ・観察の視点が属人的で、記録内容にもバラつきが見られ、子どもの興味の反映が薄れることがある。具体的な内容や根拠を持って保育を考えられるような働きかけが必要。
- ・歩育の実践はしているが、地域への発信力はまだ弱い。職員一人ひとりが歩育を語れるよう、日々のやり取りや会議内での話し合いなどを積み重ねていきたい。

#### ③ 運営管理

##### 目標

- ・園運営に対して参画意識を向上する
- ・役割を持って仕事に取り組む意欲を持つ

##### 振り返り・課題

- ・園の行事等に職員全員が意識して参画できるような仕組みを作ってきた。全員とまではいかないが、クラスの隔たりを越えて、それぞれが役割を持って仕事を行なえるようになってきた。伝える際の伝え方や理解度などを考慮した上で、職員が行動できるように引き続き仕組みを作り、そのサイクルを回して必要がある。

### 3. 施設運営

#### (1) 当年度目標

##### ① 保育活動 全体

- ・子どもの発達を理解し、その姿に合わせた保育活動の展開を行なう
- ・リフレッシュガーデンとして、地域活動を広げていく

##### ① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
0歳児	*安定した生活リズムと身近な大人との信頼関係をもとに、人との関わりを喜び、心身の健やかな成長を育む。

	<p>*安心できる環境の中で、五感を使った体験を通し、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む。</p>
1 歳児	<p>*保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む。 *生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む。</p>
2 歳児	<p>*自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる。 *大人に見守られながら意欲的に自分のことは自分でしようとする。 *身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地良さを味わう。 *生活や遊びの中で、体を動かすことを十分に楽しむ。</p>
3 歳児	<p>*自己主張をしながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする。 *生活や遊びの中に期待や見通しを持ち、自分のことは自分でしようとする。 *身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心地良さを味わう。 *生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する。</p>
4 歳児	<p>*十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする。 *できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける。 *人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう。 *様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる。</p>
5 歳児	<p>*一つの目的意識のもとに関係し合い、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向って協力し、達成感や喜びを味わう。 *身体や栄養、病気などに関心を持ち、健康や安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に行動する。 *体験したことや自分の思いを相手に分るように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる。 *運動や遊具・用具を使用した活動を通し、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整しようとする。</p>

## ② 職員の処遇

- ・それぞれの役割の理解と成長の道筋を明確化し、主体性を引き出す
- ・歩育を通しての地域活動の充実

## ③ 運営管理

- ・園内の業務を仕組み化し、誰が担当しても一定の質が保たれる状態を実現する
- ・地域とのつながりを単発で終わらせず、年間を通して継続する流れを作る

## (2) 実施施策

### ① 保育活動

#### 施策 1

子どもの姿を見る視点を園全体でそろえ、誰が見ても同じように理解・支援できる体制をつくる。

#### 施策 2

歩くだけでなく、歩育を学びに変える“探究保育”へ。地域の家庭と関わる中で、それを語っていく。

### ② 職員の処遇

#### 施策 1

・職員が自分の立ち位置と期待役割を理解できることで、責任と自信を持って働けるようにする。

### ③ 運営管理

#### 施策 1

掲示板、SNS の有効活用(歩育の様子の掲示等)

#### 施策 2

職員が地域に歩育の良さ・効果を保護者・地域に語る

## (3) 児童の処遇

### ① クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
つき	0歳児	2名	6名	
ほし	1歳児	3名	13名	
そら	2歳児	3名	18名	
なみ	3歳児	1名	18名	
にじ	4歳児	1名	18名	
ひかり	5歳児	1名	15名	要支援児1名

### ② 月別保育予定日数

4月・・・25日
5月・・・23日
6月・・・26日
7月・・・26日
8月・・・25日
9月・・・23日
10月・・・26日
11月・・・24日
12月・・・24日
1月・・・23日
2月・・・22日
3月・・・26日

合計・・・293日

#### (4) 健康管理

##### 健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

##### i. 日常養護・健康管理

- ・連絡帳や朝の視診、保護者からの情報をもとに子どもの状態を観察
- ・登園時0歳児は園内で検温し、その日の健康状態を保護者保育士双方で確認し、お預かりする。
- ・0歳児は月に2回、1歳以上は月1回の身体測定を行い子どもの発育及び発達状態を定期的に把握していく。

##### ii. 病気の予防と早期発見

- ・保育中に体調不良や怪我等が発生した場合には、その子どもの状態に応じて早期に保護者に連絡を行う。
- ・嘱託医をはじめ、医療関係機関や保健所との連携を必要に応じて行う
- ・朝や午睡明けの看護師による巡回
- ・睡眠表による睡眠チェックを行う  
(0歳児5分おき、1～2歳児 10分おき、3～5歳児 15分おきに個別確認)

##### iii. 安全と事故防止

- ・家具は転倒防止器具を付ける。また、階段には折り返し先が見えるよう、2階と3階のおどり場には鏡をとりつけている。
- ・不審者対応として学校110番を設置
- ・園内各保育室に防犯カメラを設置

##### iv. 健康増進と保健指導

- ・0歳児は月に2回、満1歳以上は月に1回身長、体重測定を行うと共に、定期的に健康診断を行い保護者連絡ツールアプリにて保護者に連絡し、保護者が子どもの状態を理解し、日常生活に活用できるようにする。
- ・手洗い、うがい、トイレの使い方、歯の磨き方指導を行う

##### v. 環境衛生

- ・新型コロナウイルスを機に玄関前にアルコール消毒液を設置し、保護者は入室前に手指消毒を行う。また、子ども達は小さな子どもが口にする可能性も考え、アルカリ・酸性水で玩具等の洗浄を行っている。
- ・毎年、専門業者によるトイレクリーニングを行なっている。
- ・手洗い後はペーパータオルを使用
- ・害虫駆除（年間2回）

##### 年間保健行事

- 内科健診 0歳児（月1回）、1歳児以上（年2回）
- 視力測定 4歳児・5歳児（看護師による簡易検査を年2回）
- 歯科健診 全園児（年2回）

## (5) 年間行事

### 主な年間行事

- 4月・・・ 入園式・保護者会
- 5月・・・ こどもの日の集会・田植え遠足（4・5歳児）・乳児ふれあいデー  
個別面談
- 6月・・・ 個別面談
- 7月・・・ 七夕、1日特別保育（5歳児）・個別面談
- 8月・・・ プール・水遊び
- 9月・・・ 引き渡し避難訓練・稲刈り遠足（4・5歳親子）・乳児ふれあいデー
- 10月・・・ 親子遠足（3歳）・乳児発表会
- 11月・・・ 運動会
- 12月・・・ 保護者会・クリスマス会・もちつき
- 1月・・・ 個別面談（5歳児）・幼児発表会・保護者会
- 2月・・・ 節分、遠足（5歳児）・個別面談（0～4歳児）
- 3月・・・ ひなまつり・おわかれ会・卒園式

## (6) 食事

### i. 目標

「丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども」  
食は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期にもっとも大切な栄養を豊かに摂取し、健康な身体作りをすると共に、食習慣を促し、生きる力の基礎を培う。

### ii. 栄養管理

献立会議に参加すること、及び栄養摂取量表で確認する。

### iii. 食育

食育は、毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べる事を楽しみ、食事を楽しみあう子どもに成長していく事を期待するものです。  
そのために乳幼児期には食域を広げ、子ども達の食への興味を引き出す事を食育の目的とし、毎日食育をベースに、企画する食育活動を加えて展開します。

### iv. 衛生管理

- ・日々日常点検表と業務完了届を通して実施状況を確認する。
- ・オゾン発生器の設置
- ・各保育室空気清浄機の設置

### v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳 未満児	465	17.5	15.5	213	2.0	188	0.20	0.28	18
3歳児 以上児	510	19.2	17.0	230	2.0	200	0.20	0.32	16

#### vi. その他

初期（2名）、後期（2名）、後期（2名）、完了（0名）  
アレルギー児対応（5名）

#### (7) 安全管理

##### 安全管理目標

#### 4. 施設管理

##### (1) 事務関係

###### ① 会計事務、管理事務

- ・ 施設における現金の管理は経理規定に従って行なう。
- ・ 現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行なう。
- ・ 予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

###### ② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・ 毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行なう
- ・ 延長保育料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済
- ・ 給食に関しては委託業者との契約を行い毎月の支払いとする。
- ・ 嘱託医への支払いは契約書をもとに行なう。

##### (2) 設備関係

###### ① 固定遊具の設備点検

固定遊具特になし

##### (3) 備品関係

###### ① 備品購入予定

特になし

###### ② 保育用品購入予定

- ・ 絵本、玩具、散歩用帽子

###### ③ 給食用品購入予定

- ・ 食器・調理器具

###### ④ 固定資産物品購入予定

予定なし

##### (4) 災害対策

###### ① 避難訓練

年間12回実施（保護者参加の引き渡し訓練を1回実施）

###### ② 防災設備の点検委託

各種点検は年間2回実施 マンションの管理会社が管理・実施

###### ③ 非常食糧の備蓄

（全児童＋全職員数）×3食×3日分  
消費期限点検（3月実施）

## 5. 保護者へ向けて

### 保育への理解と協力の促進

#### ① 保育参加

保育の体験を通して、集団の中での子どもの様子を知り、保育内容への理解を深めてもらう機会とする。

随時実施

#### ② 誕生会への参加

特になし

#### ③ 保護者会

4月…1年間の運営の方針、保育計画、予定、子どもの育ちについて

5～7月(個別面談)…入園、進級し数カ月を過ぎた時点での家庭と保育園の情報交換

12月…半年を経過しての子どもの様子、および今後の見通しについて

1月～2月(個別面談)…就学・進級にむけての面談

#### ④ 通信(お便り)

園だより(月に1回)…園全体や保健、乳幼児の食生活、地域に関わる情報などを発信する。

一時保育だより(月に1回)…一時保育利用者に向けて園行事や育児情報を発信する

#### ⑤ 第三者評価の実施

実施予定

## 6. 地域社会との連携

### 地域社会との連携に関する取り組み

姉妹園との交流

5歳児と近隣の認可保育園8園との交流

5歳児と学童クラブ、キッズクラブとの交流

地域のイベントへの参加(豊洲ハロウィンフェスティバル、運河ルネッサンス協議会)

園行事へのご案内(一時保育利用者、地域家庭、豊洲町会)

## 7. その他

### その他取り組み

・幼児室、事務所前の床修繕

・園庭築山修繕

ひまわりキッズガーデン志村  
2026年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

## 1. 基本情報

### (1) 所在地

東京都板橋区小豆沢一丁目12番6号 複合施設「ここから」1階

### (2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。  
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

### (3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の  
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。  
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語  
り合う」「認め合う」場をつくります。

### (4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

## 2. 前年度振り返り・課題

### (1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	54名	54名	54名	0名	0名	+1名
0歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
1歳児	8名	8名	8名	0名	0名	+8名
2歳児	10名	10名	10名	0名	0名	+10名
3歳児	10名	10名	10名	0名	0名	+10名
4歳児	10名	10名	10名	0名	0名	+10名
5歳児	10名	10名	10名	0名	0名	+10名

### (2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	21名	21名	1名	1名	(0名)
保育士	13名	13名	1名	1名	(0名)
幼稚園教諭	0名	0名	0名	0名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育補助	5名	5名	0名	0名	(0名)
用務	0名	0名	0名	0名	(0名)
事務	2名	2名	0名	0名	(0名)

### (3) 前年度目標と振り返り

#### ① 保育活動

##### 目標

- ・保育活動の質の向上と一貫性を図る。
- ・四世帯共生を通じて子どもたちの成長を促進し、地域との交流を深める。

##### 振り返り・課題

・標準化会議や昼礼の定着により、計画と実践の連動が進みました。副主任による伴走支援も強化され、月案・保育計画・週日案のつながりが分かりやすくなり、保育活動の質が全体的に底上げされました。また、AI 照合による保育計画実施率も改善傾向が見られ、組織として共通の指標で保育の質を確認できるようになりました。

一方で、計画と振り返りを次月へつなげる力には職員間で差が残りしました。昼礼での要点共有には属人性があり、情報共有率はまだ目標の80%に達していませんでした。若手・中堅職員における保育価値観の統一にも課題が見られ、理念や行動基準を実践へ落とし込む支援が引き続き必要だと感じました。

・高齢者施設との交流が全クラスで週1回以上実施され、子どもの社会性や共感性の育ちが多く見られました。交流活動の記録や写真掲示により、保護者にも子どもの育ちを伝えられるようになり、園の取り組みへの理解が深まりました。また、異年齢交流や卒園児との関わりも進み、園ならではの「多世代で育ち合う」環境が広がりました。

一方、複合施設（GH・YH）との連携はまだ属人的で、協働の仕組みづくりが十分ではありませんでした。交流準備や声掛けの質にも職員間のばらつきがあり、「0～100歳をつなぐ役割」の認識には、さらなる浸透が必要でした。地域資源との連携も広がりつつあるものの、計画的な繋がりには至っておらず、地域認知率の測定や発信の強化が今後の課題として残りしました。

・前年度は、保育の質の基盤づくりと四世代共生の実践において大きく前進しました。一方で、職員全体での価値観の統一や、複合施設・地域との協働体制の強化など、仕組みとしての定着が必要な課題も明確になりました。令和8年度は、これらの土台をさらに深め、質の安定と地域への発信力向上に取り組んでいきたいと考えています。

#### ② 職員の処遇

##### 目標

- ・職員の能力向上と一体感の醸成。
- ・職員の協力体制を強化し、働きやすい環境を整える。

##### 振り返り・課題

・主任・副主任の役割整理が進み、園内の指導体制が明確になりました。標準化会議や昼礼を通して保育観や価値観の共有が深まり、一体感が高まりました。また、副主任の伴走により若手の育成も進み、保育計画と実践のつながりが改善しました。ES アンケートでも、上司の支援や成長実感が高い評価となりました。一方で、理念を理解して行動につなげる力には職員間の差が残りしました。四世代共生の役割認識や保育価値観の浸透にはまだばらつきがあり、振り返りを次の計画につなげる力も一部で弱い状況でした。育成の均質化が次年度の課題となりました。

・昼礼や会議の定着により、クラス間の情報共有がスムーズになり、協力体制が強まりました。交流活動も全クラスで習慣化し、記録と発信が進んだことで保護者との連携も円滑です。タスク管理も改善し、計画的に仕事を進める職員が増えました。一方で、GH・YHとの連携は属人的で、協働の仕組みがまだ不十分でした。情報共有率も目標に届かず、内容が行動に結びついていないケースがありました。また、人員不足による業務負担やICT活用の差も、働きやすさに影響していました。

### ③ 運営管理

#### 目標

- ・運営管理の効率化と標準化。また、地域コミュニティの拡大を目指す。

#### 振り返り・課題

・標準化会議・昼礼・乳幼児会議の定着により、園内の運営サイクルが整い、情報共有や保育計画の流れが可視化されました。特に、月案→保育計画→週日案の連動を全員で確認する仕組みができたことで、運営が属人的になりにくくなり、日々の判断が整理されました。また、カタグルマを用いたタスク管理も徐々に浸透し、提出物・計画・業務進行が以前より安定して進むようになりました。これらにより、運営の標準化が一定程度進み、業務の見通しやすさが改善しました。

・方で、運営の質には職員間のばらつきが見られました。特に、情報共有率は71%と目標に達しておらず、会議内容が実践に結びつくまでのサイクルに差が残りました。また、タスク管理の定着度にも個人差があり、行動計画が十分に活用されていない場面もありました。さらに、複合施設との連携方法が明確な“仕組み”になっておらず、交流調整が属人的であったため、標準化を運営全体に広げるための強化が必要だと感じました。

## 3. 施設運営

### (1) 当年度目標

#### ① 保育活動 全体

- ・保育計画と実践の連動を強化し、“質の安定化”を図る
- ・多世代・異年齢交流を保育計画に組み込み、“四世代共生の質”を高める

#### ① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
0 歳児	<ul style="list-style-type: none"><li>・安定した生活リズムと身近な大人との信頼関係をもとに、人との関わりを喜び、心身の健やかな成長を育む</li><li>・安心できる環境の中で、五感を使った体験を通し、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む</li></ul>
1 歳児	<ul style="list-style-type: none"><li>・保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む</li><li>・生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む</li></ul>
2 歳児	<ul style="list-style-type: none"><li>・自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる</li><li>・大人に見守られながら意欲的に自分のことは自分ですようとする</li><li>・身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地よさを味わう</li><li>・生活や遊びの中で、体を動かすことを十分に楽しむ</li></ul>
3 歳児	<ul style="list-style-type: none"><li>・自己主張しながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする</li><li>・生活や遊びに期待や見通しを持ち、自分のことを自分ですようとする</li><li>・身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心地よさを味わう</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する</li> </ul>
4 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする</li> <li>・できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける・人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう</li> <li>・様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる</li> </ul>
5 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの目的意識のもとに関係しあい、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向かって協力し、達成感や喜びを味わう</li> <li>・身体や栄養・病気などに関心を持ち、健康や安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に活動する</li> <li>・体験したことや自分の思いを相手に分かるように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる</li> <li>・運動や遊具・用具を使用した活動を通して、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整しようとする</li> </ul>

## ② 職員の処遇

- ・育成体制の定着と質の向上
- ・働きやすさの向上と業務負担の平準化

## ③ 運営管理

- ・運営標準化の確立と情報共有率の向上
- ・地域コミュニティとの連携拡大と認知率の向上

## (2) 実施施策

### ① 保育活動

#### 施策 1

- ・週ごとの振り返りとアイデア共有を習慣化し、月案から週日案までのつながりが自然に生まれる仕組みを育てる。

#### 施策 2

- ・四世代交流を月案の段階から組み込み、GH・YH との協力体制を整えることで、交流の質と継続性を確保する。

## ② 職員の処遇

#### 施策 1

- ・育成ステップを可視化し、月 1 回の個別育成面談を通して、進捗報告と完了報告に基づく成長支援の流れを定着させる。

#### 施策 2

- ・5S を基盤に“気づいて動く”働き方を根づかせ、業務の効率化と事務時間の安定確保を進める。

### ③ 運営管理

#### 施策 1

・標準化会議で決まったことを翌日の実践につなげる流れを整え、情報共有率 80%を維持する運営体制を確立する。

#### 施策 2

・半径 1km の地域施設との月次連携を歩育と結び、園のコンセプト認知を高める日常的な関わりをつくる。

### (3) 児童の処遇

#### ① クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
もも	0 歳児	2 名	6 名	
たんぽぽ	1 歳児	3 名	8 名	
ちゅうりっぷ	2 歳児	2 名	10 名	
すみれ	3 歳児	1 名	10 名	
ゆり	4 歳児	1 名	10 名	
ひまわり	5 歳児	1 名	10 名	

#### ② 月別保育予定日数

4 月	・・・	25 日
5 月	・・・	23 日
6 月	・・・	26 日
7 月	・・・	26 日
8 月	・・・	25 日
9 月	・・・	23 日
10 月	・・・	26 日
11 月	・・・	23 日
12 月	・・・	24 日
1 月	・・・	23 日
2 月	・・・	22 日
3 月	・・・	26 日
合計	・・・	292 日

### (4) 健康管理

#### 健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

#### i. 日常養護・健康管理

- ・ コドモンアプリにて個々の健康観察と管理
- ・ 看護師による日々の巡回と子どもの視診を定期的に行い健康状況の把握を行う

#### ii. 病気の予防と早期発見

- ・ 園の玄関にて、アルコール溶剤を置き来訪者が除菌、消毒してから入室できるようにしている。
- ・ 感染症が発症した際には掲示等で保護者に知らせ注意を促す。
- ・ 予防接種の呼びかけを行い、事前に感染拡大を防止する。

### iii. 安全と事故防止

- ・ 学校110番の設置。
- ・ 家具等は転倒防止具をつける。柱、角の部分には保護ガードをつける。
- ・ 事故防止マニュアルを作成し安全策を図る。
- ・ SIDSの防止（午睡時睡眠チェック 0歳児：5分間隔、1～2歳児：10分間隔、3～5歳児：15分間隔）
- ・ 安全対策・記録カメラを設置し、午睡等の安全対策を強化する。

### iv. 健康増進と保健指導

- ・ 保健便りを毎月発行し、健康情報や保健指導を行なう。
- ・ 年間保険計画に基づく看護師による保健指導を行なう。
- ・ 全園児毎月1回、身長・体重測定と共に、定期的な健康診断を行い、連絡用アプリにて保護者に連絡し、子どもの状態を理解できるようにしている。

### v. 環境衛生

- ・ 害虫駆除は年2回業者に委託。
- ・ 午睡用の布団は、丸洗いを定期的を実施。
- ・ 園舎内、トイレ清掃については電解水を使用しマニュアルに沿って行なう。
- ・ 遊具、玩具の消毒については定期的に行い、0歳児用は1日2回以上行なう。
- ・ 感染症流行期には電解水を用いて室内の消毒を行なう。
- ・ 年に1回、トイレクリーニング・コーティングを実施。
- ・ オゾン発生装置、空気清浄機を設置。

### 年間保健行事

- ・ 内科健診 0歳児（月1回）・1歳児以上（年2回）
- ・ 耳鼻科健診 実施なし
- ・ 眼科健診 実施なし
- ・ 視力検査 実施なし
- ・ 歯科健診 全園児年2回
- ・ 尿検査 実施なし

### (5) 年間行事

#### 主な年間行事

- 4月・・・入園進級お祝い会・保護者会
- 5月・・・子どもの日の集い・親子遠足（5歳児親子）・ここから祭り ・卒園児交流
- 6月・・・個別面談（全園児）
- 7月・・・七夕・一日特別保育(5歳児)
- 8月・・・水遊び
- 9月・・・引渡し訓練・祖父母交流会・保護者会
- 10月・・・さつま芋掘り（5歳児）・運動会
- 11月・・・個別面談（0～4歳）・作品展 ・親子自然体験（5歳児親子）
- 12月・・・クリスマス会・餅つき会
- 1月・・・個別面談（5歳）・おゆうぎ会
- 2月・・・節分・保護者会（0～5歳）
- 3月・・・ひなまつり・お別れ遠足・お別れ会・卒園式

## (6) 食事

### i. 目標

「丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども」食は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期にもっとも大切な栄養を豊かに摂取し、健康な身体作りをすると共に、食習慣を促し、生きる力の基礎を培う。

### ii. 栄養管理

献立会議に参加すること、及び栄養摂取量表で確認する。

### iii. 食育

食育は、毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しむあう子どもに成長していくことを期待するものです。そのために乳幼児期には職域を広げ、子どもの達の食への興味を引き出すことを食育の目的とし毎日食育をベースに、企画する食育活動を加えて展開します。

食育会議を毎月開催。

### iv. 衛生管理

日々日常点検表と業務完了届けを通して実施状況を確認する。

### v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳未満児	475	17.8	15.8	213	2.3	188	0.25	0.28	20
3歳児以上児	520	19.2	17.3	230	2.2	190	0.28	0.32	20

### vi. その他

離乳食 初期食 2名 中期食 1名 後期食 3名 アレルギー児対応 1名

## (7) 安全管理

### 安全管理目標

- ・交通安全や避難訓練について記述し、訓練日を記載します。
- ・交通安全教育（4月、9月）
- ・非常災害時の避難訓練（月1回）
- ・引き渡し訓練（9月1日）

## 4. 施設管理

### (1) 事務関係

#### ① 会計事務、管理事務

- ・施設における現金の管理は経理規定に従って行なう。
- ・現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行なう。
- ・予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

## ② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行なう
- ・延長保育利用料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済。
- ・給食に関しては委託業者との契約を行い毎月の支払いとする。
- ・嘱託医への支払いは契約書をもとに行なう。

## (2) 設備関係

### ① 固定遊具の設備点検

- ・固定遊具特になし

## (3) 備品関係

### ① 備品購入予定

- ・特になし

### ② 保育用品購入予定

- ・絵本、紙芝居、玩具、運動用品、保育材料等

### ③ 給食用品購入予定

- ・食具、調理器具等

### ④ 固定資産物品購入予定

- ・エアコン入れ替え

## (4) 災害対策

### ① 避難訓練

- ・年間 1 2回実施（年 2回 建物全体 合同訓練実施）

### ② 防災設備の点検委託

- ・年間 2回実施（9月、3月）

### ③ 非常食糧の備蓄

- ・（全児童＋全職員数）× 3食× 3日分
- ・備蓄品の点検と追加購入

## 5. 保護者へ向けて

### 保育への理解と協力の促進

#### ① 保育参加

- ・子ども達が園でどのような生活を送っているのか、またクラス全体の様子なども知ってもらう
- ・開催 2週間前から、クラス前に掲示し、記名してもらう。
- ・年 2回（5・11月）、期間を設けているが、基本的には随時。

#### ② 誕生会への参加

- ・特になし

### ③ 保護者会

- ・保護者懇談会（年3回程度実施）・・・園の保育の理解、子どもの姿、発達を知る。
- ・個別面談の実施（年2回程度）・・・子どもの様子、家庭での様子、子育て観の共有

### ④ 通信（お便り）

毎月発行するものとして園便り・各クラスお便り・ほけん便り、月1回給食便り、その他行事毎に発行。

### ⑤ 第三者評価の実施

第三者評価受審予定

## 6. 地域社会との連携

### 地域社会との連携に関する取り組み

- ・町会への加入
- ・小学校との連携（年2回）
- ・あいキッズとの連携
- ・就学を控えた5歳児の学校訪問、交流会への参加
- ・要保護児童対策地域協議会への出席

## 7. その他

### その他取り組み

特になし

# ひまわりキッズガーデン有明 2026年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

## 1. 基本情報

### (1) 所在地

東京都江東区有明一丁目4番11号

### (2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。  
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

### (3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の  
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。  
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語  
り合う」「認め合う」場をつくります。

### (4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

## 2. 前年度振り返り・課題

### (1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 期末)
全体	110名	104名	102名	▲2名	+8名	0名
0歳児	0名	0名	0名	0名	0名	0名
1歳児	20名	20名	20名	0名	0名	+20名
2歳児	21名	19名	21名	+2名	0名	+21名
3歳児	23名	22名	22名	0名	+1名	+22名
4歳児	24名	22名	18名	▲4名	+6名	+18名
5歳児	22名	21名	21名	0名	+1名	+21名

### (2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	23名	24名	1名	1名	(0名)
保育士	16名	17名	1名	1名	(0名)
幼稚園教諭	0名	0名	0名	0名	(0名)
看護師	0名	0名	0名	0名	(0名)
保育補助	6名	6名	0名	0名	(0名)
用務	0名	0名	0名	0名	(0名)
事務	1名	1名	0名	0名	(0名)

### (3) 前年度目標と振り返り

#### ① 保育活動

##### 目標

地域活動の充実  
地域への情報発信  
年齢に合わせた活動の展開

##### 振り返り・課題

地域への情報発信に関しては、SNS を活用した展開を始めてきているが、園児数獲得という上ではまだ発信の仕組むが定着していない。今後日常的な発信を強化していく中で、運用の仕方の仕組み化が必要になってきている。

地域活動に関しては、1 歳児クラスを中心に園庭開放や散歩体験、給食体験などを実施し取り組んでいることで、リピーターになって参加してくれる方も出てきている。一時保育利用者も定着しており、保育園への入園にもつながっている。

#### ② 職員の処遇

##### 目標

保育能力の向上

##### 振り返り・課題

湾岸 4 園の主任を中心に、保育のレシピを活用して職員が展開する保育内容を標準化できるように取り組んできているが、実際に日々の保育での取り入れ方は職員それぞれによって違いがあると考えている。今後は、展開する保育の中での取り入れ方もある程度、理解を同じようにしていないと職員のスキルによって子どもの育ちが変わってきてしまうということが起きると認識している。職員のスキル向上のために、ICT を活用しながら職員が知識を習得できる環境をつくっていく必要があると考えている。

#### ③ 運営管理

##### 目標

ビジョンの浸透  
園運営への参画意識の向上

##### 振り返り・課題

職員の毎月の取り組みを管理していく中で、それぞれにフィードバックをしていきながら職員の成長実感が現れるように取り組んできたが、自身の成長を目に見えて感じるということはなかなか難しく職員自身が成長を感じるというところに結び付けるには、難しさがあった。成果の指標を数値化していきながら職員が自身の成長を感じられる仕組みが必要になってきている。

### 3. 施設運営

#### (1) 当年度目標

##### ① 保育活動 全体

年齢に合わせた子どもたちの発達を促す  
地域への情報発信

① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
1 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む</li> <li>・ 生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む</li> </ul>
2 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる</li> <li>・ 大人に見守られながら意欲的に自分の事を自分でしようとする</li> <li>・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地よさを味わう</li> <li>・ 生活や遊びの中で、身体を動かすことを十分に楽しむ</li> </ul>
3 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己主張しながらも、自分以外のひとの気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする。</li> <li>・ 生活や遊びに期待や見通しを持ち、自分のことを自分でしようとする</li> <li>・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心地よさを味わう</li> <li>・ 生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する</li> </ul>
4 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする</li> <li>・ できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身に付ける</li> <li>・ 人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう</li> <li>・ 様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる</li> </ul>
5 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一つの目的意識のもとに関係しあい、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認めあいながら、目的に向かって協力し、達成感や喜びを味わう</li> <li>・ 身体や栄養・病気などに関心を持ち、健康や安全などの生活に必要な基本的習慣や態度を身に付け、見通しをもって主体的に活動する</li> <li>・ 体験したことや自分の思いを相手にわかるように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる</li> <li>・ 運動や遊具・用具を使用した活動を通して、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整しようとする。</li> </ul>

② 職員の処遇

保育スキルの向上

③ 運営管理

園運営への参画意識の向上

(2) 実施施策

① 保育活動  
施策 1

地域ニーズに即した未就園児支援（一時保育等）の拡充

## 施策2

地域交流の「定期的・継続的」な関係構築への発展

## ② 職員の処遇

### 施策1

書類業務の効率化と IT/AI の洗練

## ③ 運営管理

### 施策1

職員の育成と業務の仕組み化

## (3) 児童の処遇

### ① クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
ほし	1歳児	4名	20名	
そら	2歳児	4名	23名	
なみ	3歳児	2名	20名	要支援児1名
にじ	4歳児	1名	22名	要支援児2名
ひかり	5歳児	1名	17名	要支援児1名

### ② 月別保育予定日数

4月	25日
5月	23日
6月	26日
7月	26日
8月	25日
9月	23日
10月	26日
11月	24日
12月	24日
1月	23日
2月	22日
3月	26日
合計	293日

## (4) 健康管理

### 健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

#### i. 日常養護・健康管理

- ・ 連絡用アプリや登園時の視診、保護者からの情報をもとに子どもの状態を把握する。
- ・ 午睡後の検温、看護師による巡回で子どもの体調変化を把握する。
- ・ 子どもの様子を共有する、職員間の引継ぎを行う。

#### ii. 病気の予防と早期発見

- ・ 職員、子どもの手洗い、うがいの励行と健康指導を行う。
- ・ 予防接種の呼びかけを行い、事前に感染拡大を防止する。
- ・ 感染症発生時は、掲示等による保護者への迅速な周知と感染拡大を防止する。
- ・ 玄関での手指消毒を実施する。（アルコールの設置）
- ・ 乳幼児突然死症候群（SIDS）防止策を遵守する。  
（睡眠表による睡眠チェックを行う）  
1～2歳児 10分おき、3～5歳児 15分おきに個別確認

### iii. 安全と事故防止

- ・ 学校110番を設置する。
- ・ 玄関ドアの常時施錠し、来訪者はモニター確認後に解錠し自動施錠する。
- ・ 津波避難対策としてのマンション上層階への避難経路確保と訓練を行う。
- ・ 園内各保育室に防犯カメラを設置

### iv. 健康増進と保健指導

- ・ 各種おたよりによる、健康増進につながる情報を発信する
- ・ 全園児毎月1回、身長・体重測定と共に、定期的な健康診断を行い連絡用アプリにて保護者に連絡し、こどもの状態を理解できるようにしている。
- ・ 年間保健計画に基づく看護師による保健指導を行う。

### v. 環境衛生

- ・ 毎日保育室や玩具を安全な電解水（アルカリ水・酸性水）で清掃と消毒を行う
- ・ タオル等の共有をせず、使い捨てペーパータオルを使用する。
- ・ 害虫駆除（年2回）
- ・ 毎年、専門業者によるトイレクリーニング、エアコンクリーニングを実施する
- ・ 室内の除菌、脱臭にオゾン発生器を1台と空気清浄機を各部屋に設置している

### 年間保健行事

内科検診：1歳児以上（年2回）  
耳鼻科健診：実施なし  
眼科健診：実施なし  
視力検査：4歳児・5歳児（看護師による簡易検査を年2回）  
歯科健診：全園児（年2回）  
尿検査：実施なし

### (5) 年間行事

#### 主な年間行事

4月・・・入園式、保護者会  
5月・・・こどもの日、田植え遠足、乳児ふれあいデー  
6月・・・個別面談  
7月・・・七夕、一日特別保育(5歳児)  
8月・・・プール・水遊び  
9月・・・親子稲刈り遠足（4，5歳児）、引き渡し訓練  
10月・・・3歳児親子遠足、乳児発表会・保護者会  
11月・・・運動会  
12月・・・5歳児個別面談、クリスマス、餅つき（鏡餅づくり）  
1月・・・幼児発表会・保護者会  
2月・・・節分、個別面談（1歳児～4歳児）、遠足(5歳児)  
3月・・・ひなまつり、お別れ会、卒園式

## (6) 食事

### i. 目標

丈夫な体・豊かな心を育む食体験を通して、自らの健康を育める子ども  
「食」は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期に最も大切な「栄養」を豊かに摂取し、健康は体づくりをすると共に、食習慣の獲得を促し、生きる力の基礎を培います。

### ii. 栄養管理

献立会議への参加、及び栄養摂取管理表での確認を行います。

### iii. 食育

丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して、自らの健康を育める子ども  
「食」は人間形成であり、人格形成です。乳幼児期に最も大切な「栄養」を豊かに摂取し、健康な身体づくりをすると共に、食習慣の獲得を促し、生きる力の基礎を培います。  
ひまわりの保育園では、この考え方を元に、食育活動を行っていきます。私たちは、保育園で生活するこの乳幼児期に食域を広げ、子ども自身が毎日の食事で身体と心の栄養を補い、五感を使って食事の時間を楽しむことを食育の目的としています。

### iv. 衛生管理

日々、日常点検表と業務完了届を通じて実施状況を確認します

### v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー	蛋白質	脂質	カルシウム	鉄分	ビタミンA	ビタミンB1	ビタミンB2	ビタミンC
	kcal	g	g	mg	mg	μg	mg	mg	mg
3歳 未満児	465	17.5	15.5	213	2.3	188	0.25	0.28	20
3歳児 以上児	510	19.2	17.0	230	2.2	190	0.28	0.32	20

### vi. その他

アレルギー食対応：2名

## (7) 安全管理

### 安全管理目標

非常災害時の避難訓練（毎月1回）  
引き渡し訓練（9月）

## 4. 施設管理

### (1) 事務関係

#### ① 会計事務、管理事務

- ・施設における現金は経理規程に沿って管理をおこなう
- ・現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行う
- ・予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行う

## ② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- ・毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理をおこなう
- ・延長保育利用料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コードモン」にて反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済
- ・給食に関しては委託事業者と契約を行い毎月の支払とする
- ・嘱託医への支払いは契約書をもとに行う

## (2) 設備関係

### ① 固定遊具の設備点検

- ・固定遊具特になし

## (3) 備品関係

### ① 備品購入予定

- ・椅子購入

### ② 保育用品購入予定

- ・絵本、玩具、運動用品、保育材料等

### ③ 給食用品購入予定

- ・食器、食具、調理器具等

### ④ 固定資産物品購入予定

- ・エアコン入れ替え
- ・LED 入れ替え

## (4) 災害対策

### ① 避難訓練

- ・年間 12 回実施、うち保護者参加の引き渡し訓練 1 回実施

### ② 防災設備の点検委託

- ・年間 2 回実施・マンション管理会社が管理施行

### ③ 非常食糧の備蓄

- ・（全児童＋全職員数）× 3 食×3 日分＋α 消費期限点検（9 月実施）

## 5. 保護者へ向けて

### 保育への理解と協力の促進

#### ① 保育参加

保育の体験を通して、集団の中での子どもの様子を知り、保育内容への理解を深めてもらう機会とする

#### ② 誕生会への参加

こどもの誕生月に開催される誕生会に参加し、子どもの成長と保護者の育児への労いをする機会とする

#### ③ 保護者会

4 月…1 年間の園運営、保育計画、予算、子どもの育ちについて  
6 月…個別面談にて 3 か月過ぎた時点での家庭と保育園の情報交換

10月…半年を経過しての子どもの様子、および今後の見通しなど  
1月…進級や小学校就学に向けての面談

**④ 通信（お便り）**

園だより（月1回）・・・園全体や地域に関わる情報、保健に関する情報を発信する  
給食だより（月1回）・・・乳幼児期の食生活について園と家庭の架け橋となる内容を発信する

**⑤ 第三者評価の実施**

・第三者評価実施予定

**6. 地域社会との連携**

**地域社会との連携に関する取り組み**

姉妹園との交流会

地域のイベントへの参加（有明ガーデン点灯式、有明サンタ、ガーデンシアター避難訓練など）

**7. その他**

**その他取り組み**

・エアコン入れ替え工事  
・LED 入れ替え工事

# ひまわりキッズガーデン有明の森 2026年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

## 1. 基本情報

### (1) 所在地

東京都江東区有明一丁目4番20号

### (2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。  
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

### (3) 保育方針

保育園に集うたくさんのお親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の  
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。  
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語  
り合う」「認め合う」場をつくります。

### (4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

## 2. 前年度振り返り・課題

### (1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 (期末))
全体	100名	93名	89名	▲4名	+11名	▲16名
0歳児	6名	6名	6名	0名	0名	+6名
1歳児	15名	13名	15名	+2名	0名	+15名
2歳児	20名	18名	17名	▲2名	+4名	+16名
3歳児	19名	18名	15名	▲3名	+4名	+15名
4歳児	16名	15名	16名	+1名	0名	+16名
5歳児	23名	22名	21名	▲1名	+2名	+21名

### (2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	21名	27名	7名	13名	(3名)
保育士	13名	16名	3名	7名	(3名)
幼稚園教諭	0名	0名	0名	0名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育補助	5名	7名	2名	3名	(0名)
用務	1名	1名	2名	2名	(0名)
事務	1名	2名	0名	1名	(0名)

### (3) 前年度目標と振り返り

#### ① 保育活動

##### 目標

時代とともに利用者のニーズも生活スタイルも変化している。現在の子どもたちの心身の成長状況や、生活環境を考慮し、保育環境や保育内容（保育者の関わり）は、現状で良いのかどうかを、確認、改善、実行する。

##### 振り返り・課題

###### 【生活習慣の基盤づくりの見直し】

- ・ 水分補給の計画的な取り組み
- ・ 薄着保育・体温調節・感染症予防
- ・ 就寝時間の遅れへの働きかけ
- ・ 運動面の見直し（乳児クラスのバギー利用減）

家庭での生活リズム（特に水分補給・就寝時間）に課題がある子どもが多く、園として基本的な生活習慣を重点的に支援した一年であった。水分補給は結果として夏場の熱中症対策だけでなく、冬季の乾燥対策にもつながり、通年で健康な状態を維持できた。年間を通して室温・湿度・換気・手洗いの徹底により、大きな感染症の流行が発生しなかった。職員も「体温調節できる体づくり」の重要性を再確認できた。また就寝時間が遅い子どもほど、午前の活動に入りづらいう傾向が明確だった。乳児の運動面では歩ける子はできるだけ歩く設定に切り替え、立ち乗りバギーはほぼ活用せず、園内外でこどもが安全に歩く機会増やしたことで事は1歳・0歳児でも歩行が進んだ。

###### 【課題】

- ・ 家庭との連携において、睡眠・食事・生活リズムの改善が一層必要。  
園からの「伝え方」「継続した働きかけ」と同時に職員間で水分補給や体づくりの意図は共有が必須
- ・ 乳児の歩行支援や環境設定について、経験値に左右されない「共通理解のマニュアル化」が課題

#### ② 職員の処遇

##### 目標

保育力向上

##### 振り返り・課題

- ・ 保育の「意味づけ」の再確認
- ・ 合同会議（年齢別／乳児・幼児）での具体的な学び
- ・ ICT・AI活用
- ・ 園外発信の不足

年間を通しての有明との合同会議は、職員は実例を通して理解を深め、学ぶ意欲の高い職員は概念と実践が結びつき、クラス運営に自信を持つことができた。新入職員の質問をきっかけに、活動の目的や環境設定の理由を再共有することができた。保育業界全体としてもかなりICT化は進んできていると思うが、法人全体でAIを保育に活用してきた。業務の軽減化にむけてさらに活用していきたい。今年度できなかった日常の保育や園の活動を地域や保護者に伝える広報活動にもAIを活用していきたい。

**【課題】**

- ・ 職員の保育観にばらつきがあり、従来のやり方に固執した場合に改善が進まない傾向が見られるため、園としての統一した保育観の明文化が必要。
- ・ 地域・保護者への広報を強化し、「地域の居場所としての園づくり」を具体策に落とし込む。

**③ 運営管理**

**目標**

職員（非常勤職員含む）の運営への参画・ビジョンの浸透

**振り返り・課題**

- ・ 職員体制の課題と改善
- ・ 利用定員の見直し
- ・ 施設の老朽化と修繕対応

年度はじめに保育士3名が退職。看護師を保育士配置に置くなど、補助金の減額対象になる月が発生し、隙間バイトサービス等も活用しながら運営を維持いたしました。後半に保育士5名が入職し改善されましたが、人員不足で厳しい状況下の副産物として、少数精鋭で協力できる体制が整いました。利用定員を活用し認可定員数113名を利用定員99名に変更したことは、当初の定員減の目標より早く減員できましたが、年間を通して転居が多かった為、4月からはさらに利用定員を減員して運営を行います。

施設面では、給食室や園庭の水回りトラブルが複数発生。対応事業者の把握が不十分だった為、稟議書を遡って業者を探す場面も多く、施設として補修を計画的に行う為、設備の補修の際に、記録して今後に備える必要があると認識する。LED化も未着手で、次年度早々に計画したい。

**【課題】**

- ・ 新年度の保育士確保を進めるための、採用・広報活動に積極的に参加する。
- ・ 修繕の履歴・業者情報・契約状況をまとめた「施設管理台帳」の整備が急務。

**3. 施設運営**

**(1) 当年度目標**

**① 保育活動 全体**

子どもの育ちを支える生活基盤の徹底

**【目標】**子どもの生活リズムを整える保育と環境設定を全職員で統一し、年間を通して健康と主体性を育む。

1. 水分補給・薄着・体温調節などの健康習慣を「園全体のスタンダード」として運用する。
2. 家庭と連携し、睡眠・食事・生活リズムの改善に向けたアプローチを強化
3. 運動機会の拡充と、安全な移動・外遊びを保証する環境整備を進める

① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
0 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 安定した生活リズムと身近な大人との信頼関係をもとに、人との関わりを喜び、心身の健やかな成長を育む</li> <li>・ 安心できる環境の中で、五感を使った体験を通し、身のまわりに対する興味や好奇心の芽生えを育む</li> </ul>
1 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む</li> <li>・ 生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と生活の基礎となる力を育む</li> </ul>
2 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる</li> <li>・ 大人に見守られながら意欲的に自分のことを自分でしようとする</li> <li>・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地よさを味わう</li> <li>・ 生活や遊びの中で、体を動かすことを十分に楽しむ</li> </ul>
3 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己主張しながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする</li> <li>・ 生活や遊びに期待や見通しを持ち、自分のことを自分でしようとする</li> <li>・ 身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心地よさを味わう</li> <li>・ 生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する</li> </ul>
4 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする</li> <li>・ できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける</li> <li>・ 人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう</li> <li>・ 様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる</li> </ul>
5 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一つの目的意識のもとに関係しあい、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向かって協力し、達成感や喜びを味わう</li> <li>・ 身体や栄養・病気などに関心を持ち、健康や安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に活動する</li> <li>・ 体験したことや自分の思いを相手に分かるように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる</li> <li>・ 運動や遊具・用具を使用した活動を通して、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせ、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整しようとする</li> </ul>

## ② 職員の処遇

保育力向上（保育の質の標準化と ICT 活用）

【目標】保育の意図と環境設定の共通理解を深め、専門性に基づく保育実践と ICT 活用を推進する。

1. 園としての「保育観・環境設定・活動の意味づけ」を体系化し、全職員に浸透させる。 -
2. ICT・AI を活用し、業務の効率化と記録の質向上を図る
3. 園の保育を地域・保護者に可視化し、地域の居場所としての役割を確立する。

## ③ 運営管理

運営管理（持続可能な運営と安全な施設環境）

【目標】安定した職員体制と持続可能な運営を確立し、安心・安全な施設環境を計画的に整備する。

1. 職員の採用・定着戦略を整え、安定した運営体制を維持する。
2. 利用定員の変動に対応した運営の最適化を進める。
3. 老朽化が進む施設の計画的な修繕と管理を進める。

## (2) 実施施策

### ① 保育活動

#### 施策 1

水分補給・薄着・体温調節などの健康習慣を「園全体のスタンダード」として運用する。  
水分量の基準、補給タイミング、環境設定のルールを明文化  
乳児のこまめな水分補給と歩行支援を継続

#### 施策 2

家庭と連携し、睡眠・食事・生活リズムの改善に向けたアプローチを強化する。  
毎日の就寝時間・生活リズムのチェック

#### 施策 3

運動機会の拡充と、安全な移動・外遊びを保障する環境整備を進める。  
バギーの目的別使用の明確化 年齢ごとの歩行距離目安の設定

## ② 職員の処遇

#### 施策 1

園としての「保育観・環境設定・活動の意味づけ」を体系化し、全職員に浸透させる  
年齢別の環境設定ガイドラインを作成

#### 施策 2

ICT・AI を活用し、業務の効率化と記録の質向上を図る  
連絡アプリ、記録アプリの運用ルール策定（写真・動画・活動記録の標準化）

#### 施策 3

園の保育を地域・保護者に可視化し、地域の居場所としての役割を確立する。  
保育の広報（週報／月報／SNS／掲示）  
「地域サロン化計画」の始動（親子サロン・育児相談・地域交流等）

### ③ 運営管理

#### 施策 1

職員の採用・定着戦略を整え、安定した運営体制を維持する。

新入職員研修の改善 中堅育成（「任せる」「引き継ぐ」仕組み強化）

チーム保育の役割分担の明確化

#### 施策 2

利用定員の変動に対応した運営の最適化を進める。

89名体制での組織再編 配置基準と補助金の確保を念頭に入れた配置計画

#### 施策 3

老朽化が進む施設の計画的な修繕と管理を進める。

施設管理台帳（修繕履歴・業者情報）を作成

LED化などの設備更新を年度前半に着手

水回り・電源・安全設備の点検スケジュール化

### (3) 児童の処遇

#### ① クラス編成

クラス名	年齢	保育士数	園児数	備考
つき	0歳児	2名	4名	
ほし	1歳児	3名	15名	
そら	2歳児	4名	17名	要支援児1名
なみ	3歳児	1名	15名	
にじ	4歳児	1名	14名	
ひかり	5歳児	1名	15名	

#### ② 月別保育予定日数

4月	25日
5月	23日
6月	26日
7月	26日
8月	25日
9月	23日
10月	26日
11月	24日
12月	24日
1月	23日
2月	22日
3月	26日
合計	293日

### (4) 健康管理

#### 健康管理目標（全体）

子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう、積極的に次の点に取り組めます。

#### i. 日常養護・健康管理

- ・ 朝の視診、登降園管理システムコードモンや連絡帳を通して保護者からの情報をもとに子どもの状態を観察
- ・ 登園時0歳児は園内で検温し、その日の健康状態を保護者と保育士双方で確認しお預かりする。
- ・ 0歳児は月2回、満1歳以上は月1回の身体測定を行い子どもの発育及び発達状態

#### ii. 病気の予防と早期発見

- ・ 保育中に体調不良や傷害が発生した場合には、その子どもの状態に応じて早期に保護者に連絡を行う。
- ・ 感染症が予想される時期に、お便りや掲示、アルコール消毒や電解水の利用等で発生予防に努め、必要に応じて、保健所等に連絡し、その指示に従うと共に保護者や全職員に連絡し協力を求めている。

#### iii. 安全と事故防止

- ・ 保育所内外の安全点検に努め、安全対策の為に職員の体制づくりを行い、家庭や地域の諸機関の協力の下に安全指導を行う。
- ・ 学校110番の設置
- ・ 非常火災通報装置・通報電話
- ・ 津波避難対策として上層階への避難経路確保
- ・ 玄関は防犯上、常に施錠
- ・ 防犯カメラの設置

#### iv. 健康増進と保健指導

- ・ 子どもの健康に関する年間の保健計画を作成し、全職員がそのねらいを理解しながら子どもの健康の保持に努めている。
- ・ 定期的に健康診断や幼児は視力測定を行いその結果を保護者と共有。
- ・ 看護師による手洗いやエチケットゾーン等の保健指導

#### v. 環境衛生

- ・ 施設の温度、湿度、換気、採光、音などの環境を常に適切な状態に保持すると共に施設内外の設備及び用具等電解水 または消毒液を利用して清掃し（0歳児クラスは毎日、その他必要に応じて）衛生管理に努める。
- ・ 手洗い後はペーパータオルを使用
- ・ 事務所前にオゾン脱臭機、各部屋に空気清浄機を設置
- ・ 害虫駆除（年間2回）
- ・ グリストラップ清掃（年2回）

#### 年間保健行事

身体測定 0歳児（月2回）、1歳以上（毎月）  
内科健診 0歳児（月1回）、1歳児以上（年2回）  
耳鼻科健診 内科健診に含む  
眼科健診 内科健診に含む  
視力検査 4、5歳児（看護師による簡易検査を年2回）  
歯科健診 全園児（年2回）  
保健指導（適宜）

## (5) 年間行事

### 主な年間行事

- 4月・・・入園式、保護者会
  - 5月・・・端午の節句を祝う会、田植え遠足（4，5歳児）、引き渡し訓練
  - 6月・・・プール開き、個別面談
  - 7月・・・七夕の集い、親子ふれあいデー、保護者会
  - 8月・・・プール、水あそび
  - 9月・・・親子稲刈り遠足（4，5歳児）
  - 10月・・・3歳児親子遠足 乳児発表会、保護者会
  - 11月・・・湾岸スポーツフェスティバル
  - 12月・・・幼児生活発表会、保護者会、もちつき
  - 1月・・・個人面談（5歳児）、正月遊び
  - 2月・・・節分、個人面談
  - 3月・・・桃の節句を祝う会、お別れ遠足（5歳児）、お別れ会、卒園式
- ※月例行事・・・誕生日会、避難訓練

## (6) 食事

### i. 目標

「丈夫な体・豊かな心を育む食経験を通して「食」は人間形成であり、人格形成です。乳幼児期に最も大切な「栄養」を豊かに摂取し、健康な体作りをすると共に、食習慣の獲得を促し、生きる力の基礎を培います。

### ii. 栄養管理

食育会議への参加

### iii. 食育

食育は、毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って食にかかわる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみあう子どもに成長していくことを期待するものです。そのために、乳幼児期には食域を広げ、子ども達の食への興味を引き出すことを食育の目的とし、「毎日食育」をベースに、企画する食育活動を加えて展開します。

### iv. 衛生管理

日々日常点検表と業務完了届を通して実施状況を確認する。

### v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳 未満児	465	17.5	15.5	213	2.0	188	0.20	0.28	18
3歳児 以上児	510	19.2	17.0	230	2.0	200	0.20	0.32	16

#### vi. その他

- 給食だより（月1回）
- 人気メニューレシピ配布

### (7) 安全管理

#### 安全管理目標

安全計画をもとに毎月の点検や訓練を行い園運営の安全に遠隔に行います。

- 非常災害時の避難訓練（毎月）
- 引き渡し訓練（5月）

## 4. 施設管理

### (1) 事務関係

#### ① 会計事務、管理事務

- 施設における現金は経理規定に沿って管理を行う。
- 現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行う。
- 予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

#### ② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- 毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行う。
- 延長保育利用料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済。
- 給食に関しては委託事業者と契約を行い毎月の支払とする。
- 嘱託医への支払いは契約書をもとに行う。

### (2) 設備関係

#### ① 固定遊具の設備点検

- 園内設置している、のぼり棒とアスレチックは、月1回園内の設備点検と共におこなう。

### (3) 備品関係

#### ① 備品購入予定

- ・ロボット掃除機

#### ② 保育用品購入予定

- ・乳児防災頭巾
- ・乳幼児クラス玩具
- ・水遊び・砂遊び玩具とボール
- ・3歳児机
- ・幼児用椅子

#### ③ 給食用品購入予定

- ・食器と食具
- ・調理器具

#### ④ 固定資産物品購入予定

- ・3歳児机4台
- ・ロールカーテン

#### (4) 災害対策

##### ① 避難訓練

- ・月に1回実施、消火訓練も併せて行う。
- ・土曜合同保育時の避難訓練も実施
- ・保護者引渡し訓練

##### ② 防災設備の点検委託

年間2回（7月・1月）

##### ③ 非常食糧の備蓄

（全園児＋職員）×3色×3日分  
消費期限点検（3月）

#### 5. 保護者へ向けて

##### 保育への理解と協力の促進

##### ① 保育参加

通年開催

登園から降園までの我が子の様子や、他児との関わり、保育士との関わり当をみていただき、課題点や成長点の共有を行い、ひまわりの保育への理解や連携、育児相談を行う。

##### ② 誕生会への参加

クラス開催

##### ③ 保護者会

4月・・・各クラスの保育内容、年間目標、行事日程等について

6月・・・個別面談にて園や家庭でのお子さんの様子や子育ての悩みについて共有する

10月・・・子ども達の成長の姿、子どものトラブル、健康管理について

12月・・・子ども達の成長の姿、子どものトラブル、健康管理について

1月・・・5歳児個別面談

2月・・・個別面談にて園や家庭でのお子さんの様子や子育ての悩みについて共有する

##### ④ 通信（お便り）

園だより（月1回発行）

園全体の子どもたちの様子や育児情報等、保護者が知りたい内容について発信する。

保健だより（月1回発行）…感染症や日常の保健関係のお知らせ等を発信

給食だより（月1回発行）…ひまわりの食に関する考え方や人気メニューレシピ等

※園舎内には掲示、保護者にはコドモンで配信

##### ⑤ 第三者評価の実施

実施予定

#### 6. 地域社会との連携

##### 地域社会との連携に関する取り組み

- ・育児講座、保育所体験などを園で行う行事をお知らせする。（掲示板、パンフレット、メール、HP）

- ・ 地域イベントへの園児の参加
- ・ 年間を通して保育士体験の受け入れ
- ・ 園舎内開放・園庭解放

## 7. その他

その他取り組み      ・ 課外授業導入      ・ 貸出絵本（日本・英語）

# ひまわりキッズガーデン城山 2026年度事業計画

社会福祉法人ひまわり福祉会

## 1. 基本情報

### (1) 所在地

東京都板橋区志村一丁目30番15号

### (2) 保育理念

身近な大人との愛着関係を基盤に、「受容性」から「好奇心・探求心」へ。  
さらに「主体性」を持って成長する子を育みます。

### (3) 保育方針

保育園に集うたくさんの親や子どもが、小さな社会体験と生活体験を重ねながら、地域の  
一員として様々な人々と共に暮らす知恵と力を身につけます。  
そのためにひまわりの保育園では「出会う」「見る」「聴く」「触る」「体験する」「語  
り合う」「認め合う」場をつくります。

### (4) 保育目標

和と輪と話を実践する子ども

## 2. 前年度振り返り・課題

### (1) 利用者数

	利用定員	利用者数 (期首)	利用者数 (期末)	利用者数 増減 (期首～期末)	空き定員	対前年比 (利用者数 期末)
全体	60名	60名	60名	0名	0名	0名
0歳児	0名	0名	0名	0名	0名	0名
1歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名
2歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名
3歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名
4歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名
5歳児	12名	12名	12名	0名	0名	+12名

### (2) 職員数

	人数 (期首)	人数 (期末)	離職数	新規採用数	(内新卒採用数)
全体	22名	25名	3名	3名	(0名)
保育士	16名	17名	3名	1名	(0名)
幼稚園教諭	0名	0名	0名	0名	(0名)
看護師	1名	1名	0名	0名	(0名)
保育補助	4名	5名	0名	1名	(0名)
用務	0名	1名	0名	1名	(0名)
事務	1名	1名	0名	0名	(0名)

### (3) 前年度目標と振り返り

#### ① 保育活動

##### 目標

- ・子どもが経験すべき活動の充実（運動・絵画・制作・リズム・音楽・多言語等）
- ・小学生、中学生、高校生の居場所づくり

##### 振り返り・課題

- ・子どもが経験すべき活動の充実（運動・絵画・制作・リズム・音楽・多言語等）

乳幼児期には、五感を通じた体験から得られる「感じる」という実感が、好奇心や探求心、さらには困難を乗り越える力である非認知能力の育ちにつながると言われている。そのため、運動・絵画・制作・リズム・音楽・多言語など幅広い活動内容を用意し、大人が正解やゴールを提示しすぎず、子ども自身が興味のままに試行錯誤できるよう、教え込まない保育活動を心がけてきた。

##### ◆ 成果

毎月、保護者に向けて運動・絵画・リズム・音楽・多言語などの活動内容を発信したことで、活動が特定の領域に偏らず、多様な体験を満遍なく取り入れることができた。これにより、子どもが自分の興味に基づいて活動に関わる機会が増え、より幅広い経験の蓄積につながった。

##### ◆ 課題

活動領域は広がった一方で、保育者の経験値や価値観の違いにより、「子ども主体」の捉え方にばらつきが見られる。今後は子どもが自分で選択する、自ら試行錯誤する、夢中になって没頭するといった姿を「主体性」として共通認識にし、保育者間での基準を揃えた上で保育活動を展開していくことが次の課題である。

- ・小学生、中学生、高校生の居場所づくり

学校の三季休業に合わせて育児体験を実施し、小中高生が安心して過ごせる居場所づくりに取り組んでいる。卒園児をはじめ、地域の小学生や高校生が参加する機会が増え、園児はお兄さん・お姉さんとの関わりを楽しんでいる。また、小中高生も乳幼児との触れ合いを通じて笑顔が増え、のびのびと過ごす姿が見られている。

##### ◆ 成果

育児体験は三季休業にとどまらず、地域の学生の居場所としての機能も果たしつつある。不登校児にとっては学校に気持ちが向かない日に保育園を訪れ、乳幼児と関わることで安心して過ごす場となっている。幼児との関わりが自己肯定感の向上や情緒の安定につながっており、地域の子ども支援として効果が見られる取り組みとなっている。

##### ◆ 課題

現状の取り組みは安定しているものの、当園が不登校児の居場所を提供していることが十分に周知されていない。今後は、取り組みを継続しながら情報発信を強化し、必要としている子どもや家庭に届くよう利用者拡大につなげていくことが課題である。

#### ② 職員の処遇

##### 目標

- 中堅層（経験5年以上）の育成
- 「人を育てる」パートナー制度の導入

##### 振り返り・課題

組織としての保育理念・保育方針に基づいた実践を行うこと、そして利用者の安心・安全を確保するために、マニュアルや手引き書に沿った安全管理の徹底を重点項目として掲げ、中堅層（経験5年以上）の育成を進めてきた。その中で、「人を育てる」ことを中堅層の役割として位置づけ、パートナー制度の導入を行い、後輩育成に対する意識向上を図っている。

◆ 成果

中堅層が「後輩を育てる立場である」という自覚がこれまで以上に高まり、OJTの必要性や進め方について語られる場面が増えた。後輩との関わり方を振り返る習慣が定着しつつあり、育成に対する意識の向上が確認できた。また、中堅層同士で育成の悩みを共有する姿が見られるなど、組織的に育成を捉える動きが広がっている。

◆ 課題

中堅層が自信を持って後輩育成に取り組めるようになるためには、組織として心理的安全性を高めることが不可欠である。現場から率直な意見を引き出し、それを理念に結びつけていく対話やサポートの体制がまだ十分ではない。今後は、安心して意見を表明できる環境を整え、中堅層がより主体的に育成に関われる基盤づくりが課題である。

### ③ 運営管理

#### 目標

エリア内の業務標準化

#### 振り返り・課題

城山・志村・大原の3園の正規職員が集まり、合同職員会議を実施しながら、エリア内の業務標準化を進めてきた。特に、月案に基づく保育実践の標準化、クラス運営に関わる役割の共通化を重点項目とした。3園それぞれの現状を把握した上で、リーダー・サブ・サブサブの役割に応じた行動の統一を図り、園間での保育の質に差が生まれないよう取り組んできた。

◆ 成果

リーダー・サブ・サブサブの役割を「書面で理解する」に留めず、日々のクラス運営の中で実際の行動と結びつけながら認識を揃えたことで、役割と行動の結びつきが明確になった。これにより、誰がどの立場になっても共通の判断基準で動ける場面が増え、園間のばらつきが減少しつつある。また、合同職員会議を通して、園をまたいだ相互理解も深まった。

◆ 課題

役割と行動の結びつきは進んできているものの、まだ習慣化には至っていない。役割に基づく行動を確実に定着させるためには、今年度の取り組みを2026年度も継続し、繰り返し実践・振り返りを行うことが必要である。特に、日々のクラス運営の中で自然と役割行動が発揮される状態を目指し、継続的な指導とフォロー体制の強化が求められる。

## 3. 施設運営

### (1) 当年度目標

#### ① 保育活動 全体

年齢別保育において、理念や方針が「文字」として提示されているだけでは、保育者一人ひとりが「子どもへの関わり」にまでつなげて行動することが難しい  
保育価値観を「知識」から「実感」に変えるために、3つの教育・仕組みを導入する

#### ① 保育活動（各組の保育目標）

担当	目標
1歳児	・保育者との信頼関係の中で、心の安定を基盤とし、自我の芽生えを育む。 ・生活や遊びの中で五感を使い、心身の健やかな発達と、生活の基礎となる力を育む。

2 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己主張を十分に受け止めてもらい、安定して過ごす中で、自分でできた喜びを感じる。</li> <li>・大人に見守られながら意欲的に自分のことは自分でしようとする。</li> <li>・身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を表出する心地良さを味わう。</li> <li>・生活や遊びの中で、体を動かすことを十分に楽しむ。</li> </ul>
3 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己主張をしながらも、自分以外の人の気持ちにも気づいたり、相手の気持ちを受け入れようとする。</li> <li>・生活や遊びの中に期待や見通しを持ち、自分のことは自分でしようとする。</li> <li>・身近な大人や友達集団とともに体験を共有しながら、言葉を交わす心地良さを味わう。</li> <li>・生活や遊びの中で、全身を使って意欲的に活動する。</li> </ul>
4 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分に自己を発揮しながら、相手の思いを受け入れ、自分の気持ちを調整しようとする。</li> <li>・できることに喜びを感じながら、健康・安全など、生活に必要な習慣を身につける。</li> <li>・人の話に興味を持って聞いたり、自分の体験したことや思っていることを話し、言葉で伝える楽しさを味わう。</li> <li>・様々な遊びを通して全身を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わう。課題に合わせて意識して身体を動かすようになる。</li> </ul>
5 歳児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つの目的意識のもとに関係し合い、事態や場面に応じて相手の立場に立って相手を理解し、解決しようとする。互いの違いや良さを認め合いながら、目的に向って協力し、達成感や喜びを味わう。</li> <li>・身体や栄養、病気などに関心を持ち、健康や安全など生活に必要な基本的習慣や態度を身につけ、見通しを持って主体的に行動する。</li> <li>・体験したことや自分の思いを相手に分るように筋道立てて話す。状況に応じて声の大きさや話し方など、相手に合わせて話せるようになる。</li> <li>・運動や遊具・用具を使用した活動を通し、自己の身体像を確立し、自分の身体の隅々までコントロールするようになる。相手の動きに合わせて、少しずつ動きを予測しながら自分の動きを調整しようとする。</li> </ul>

## ② 職員の処遇

- ・中堅層（主任・副主任？G3）が理念に基づいた「判断の軸」と「ファシリテーション能力」を身につける
- ・一般層（G2・G1・パート）は、与えられた役割とマニュアルや手順書、月案等の指導計画に基づき、日常業務の行動に移す

## ③ 運営管理

- すくわくプログラムを通して「散歩」と「多言語」を日常プログラムに取り入れる
- 18歳までの居場所作りとして、小中高生を対象とした育児体験事業の充実を図る

## (2) 実施施策

### ① 保育活動

#### 施策 1

エピソード記述を用いた「振り返り」：抽象的な「保育目標」を、具体的な子どもの姿として観察し考察する

#### 施策 2

対話の習慣化：保育価値観に基づいて、職員同士の「保育観」のズレをすり合わせる場を作る

#### 施策 3

「やっている」や「寄り添っている」などの言葉が指す具体的な行動を「行動指針」として言語化する

### ② 職員の処遇

#### 施策 1

中堅層：園長が思考プロセスを実際に、やってみせながら伴走型の OJT を実行する

#### 施策 2

一般層：施設・玩具点検、午睡チェック、登降園の確認、食物アレルギー対応、「メッセージグレードを未然に防ぐための日々のルーチンワーク」を確実に実行する。

#### 施策 3

全員：子どもの姿（実態）を捉える観察力と考察力をつける

### ③ 運営管理

#### 施策 1

散歩で得られる「生活習慣・身体能力・人間関係・知性」の育ちを可視化し保護者に発信する

#### 施策 2

学校 3 季休業に合わせて育児体験の開催、その他、不登校児を対象とした日常受け入れを行う中で、学校に行きづらさを感じている児の居場所作りを進めていく

## (3) 児童の処遇

### ① クラス編成

クラス名	年齢	園児数	備考
あんず	1 歳児	1 2 名	
かりん	2 歳児	1 2 名	
ぶどう	3 歳児	1 2 名	要支援児 1 名
りんご	4 歳児	1 2 名	要支援児 1 名
さくら	5 歳児	1 2 名	

## ②月別保育予定日数

4月	・・・	25日
5月	・・・	23日
6月	・・・	26日
7月	・・・	26日
8月	・・・	25日
9月	・・・	23日
10月	・・・	26日
11月	・・・	23日
12月	・・・	24日
1月	・・・	23日
2月	・・・	22日
3月	・・・	26日
合計	・・・	292日

## (4) 健康管理

### 健康管理目標（全体）

- ・子ども一人ひとりの発育・発達の個人差を考慮しながら、健康な生活習慣を身につけ、豊かな成長が遂げられるよう積極的に次の点に取り組みます。

#### i. 日常養護・健康管理

- ・毎日（登園時・午睡前後）、園児の体調を把握。午睡明けは検温を行う
- ・コドモンアプリにて個々の健康観察と管理

#### ii. 病気の予防と早期発見

- ・予防接種の呼びかけを行い、事前に感染症拡大を防止する
- ・アルコール使用し、玄関での手指消毒を行う。
- ・感染症発生時には掲示にて注意を促す。

#### iii. 安全と事故防止

- ・施設内外部点検（月1回）
- ・保育環境の整備（棚や壁などの角に安全ガード、クッションなどを設置）
- ・ヒヤリハット、メッセージグレードを全職員が把握。分析を行い再発防止に努める
- ・SIDSの防止（午睡時睡眠チェック 1～2歳児…10分間隔、3～5歳児…15分間隔）
- ・安全対策カメラを設置し、午睡等の安全対策を強化する

#### iv. 健康増進と保健指導

- ・園だより内の「保健から」の欄に保健便りを毎月発行し、健康情報や保健指導を行う。

#### v. 環境衛生

- ・毎日保育室や玩具の清掃、消毒
- ・トイレクリーニングの実施
- ・エアコンクリーニングの実施
- ・オゾン発生装置
- ・空気清浄機

## 年間保健行事

- 内科健診・・・年2回（全園児）
- 歯科検診・・・年2回（全園児）
- 新入園児健診・・・年1回

## (5) 年間行事

### 主な年間行事

- 4月・・・入園進級お祝い会・保護者会（1歳児・5歳児）
- 5月・・・親子自然体験遠足・保護者会（2歳児・3歳児・4歳児）
- 6月・・・個別面談・水遊び開始
- 7月・・・七夕・一日特別保育
- 8月・・・水遊び
- 9月・・・引き渡し訓練・親子自然体験遠足・納涼会
- 10月・・・運動会
- 11月・・・個別面談（1～4歳児）
- 12月・・・個別面談（5歳児）・クリスマス会・もちつき
- 1月・・・お遊戯会
- 2月・・・節分・保護者会
- 3月・・・ひなまつり・お別れ遠足・お別れ会・卒園式

## (6) 食事

### i. 目標

「丈夫な体・豊かな心を育む食経験をを通して、自らの健康を育める子ども」  
食は人間形成であり、人格形成である。乳幼児期にもっとも大切な栄養を豊かに摂取し、健康な身体作りをすると共に、食習慣を促し、生きる力の基礎を培う。

### ii. 栄養管理

献立会議に参加、及び栄養摂取量表で確認をする。

### iii. 食育

食育は、毎日の生活と遊びの中で、自らの意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみあう子どもに成長していくことを期待するものである。そのために乳幼児期には職域を広げ、子どもの達の食への興味を引き出すことを食育の目的とし毎日食育をベースに、企画する食育活動を加えて展開する  
・食育会議を毎月開催する

### iv. 衛生管理

日々、日常点検表と業務完了届けを通して、実施状況を確認する。

### v. 給与栄養目標（給食・おやつで摂りたい栄養量の目安）

	エネルギー kcal	蛋白質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄分 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg	ビタミンB2 mg	ビタミンC mg
3歳 未満児	465	17.5	15.5	213	2.0	188	0.20	0.28	18
3歳児 以上児	510	19.2	17.0	230	2.0	200	0.20	0.32	16

#### vi. その他

アレルギー食対応児：鶏卵（1名）・乳製品（1名）

#### (7) 安全管理

##### 安全管理目標

- ・交通安全教育（年2回）
- ・非常災害時の避難訓練（月1回）
- ・引き渡し訓練（9月1日）
- ・不審者訓練（月1回）

#### 4. 施設管理

##### (1) 事務関係

###### ① 会計事務、管理事務

- ・施設における現金の管理は経理規定に従って行なう。
- ・現金収支は小口現金出納帳をもとに管理を行なう。
- ・予算書・稟議書を作成、収支の把握と管理を行なう。

###### ② 児童処遇事務（保育、給食、保健）

- 毎月の収支は資金収支予算実績報告をもとに管理を行なう
- ・延長保育料金等については月末締め、支払金額を保育業務管理ソフト「コドモン」に反映、エンペイに連動させてキャッシュレス決済
- ・給食に関しては委託業者との契約を行い毎月の支払いとする。
- ・嘱託医への支払いは契約書をもとに行なう。

##### (2) 設備関係

###### ① 固定遊具の設備点検

- ・固定遊具なし
- ・

##### (3) 備品関係

###### ① 備品購入予定

- ・職員食事用エプロン
- ・掃除機

###### ② 保育用品購入予定

- ・運動用品・玩具・絵本・楽器

###### ③ 給食用品購入予定

- ・食器類・調理器具

###### ④ 固定資産物品購入予定

- ・身長体重計
- ・避難車

##### (4) 災害対策

###### ① 避難訓練

- ・年12回実施（地震または火災を想定）
- ・引渡し訓練実施（9月）

## ② 防災設備の点検委託

- ・年2回実施（9月・3月）

## ③ 非常食糧の備蓄

- ・（全児童＋全職員数）×3食×3日分
- ・消費期限点検（概ね4月・9月実施）

## 5. 保護者へ向けて

### 保育への理解と協力の促進

#### ① 保育参加

目的・・・子ども達の生活や遊びを保護者に伝える機会として、実際に保育に入ってもらいながら保育・子育てへの理解を得る。

実施時期・・・通年随時受付

#### ② 誕生会への参加

目的・・・子どもの誕生日当日または近い日に、その児だけの誕生会を行なう。

保護者には保育参加を通し、子どもの成長を実感してもらおう。また、生まれた日などのエピソードや子どもへの感謝等を伝える日にして頂く。

#### ③ 保護者会

保護者会（5月・2月）：保育理念・保育方針・保育目標をもとに、園の価値観を伝える場とする。また、時期に合わせて子どもの成長に伴って表出する姿や発達段階等を分かりやすく伝え、子育ての協同意識を高めてもらう。

#### ④ 通信（お便り）

- ・園だより（保健、食育の欄も含む）・・・月1回発行
- ・保育計画・・・月1回発行
- ・その他（行事のお知らせなど）・・・必要に応じて発行

#### ⑤ 第三者評価の実施

- ・利用者アンケートに実施・職員アンケートの実施
- ・組織マネジメント、保育サービス、特に力を入れた取り組みについて園運営に関する全体評価を受ける

## 6. 地域社会との連携

### 地域社会との連携に関する取り組み

- ・町内会加入
- ・近隣との交流

- ・ 小学校の学校公開や交流会の参加
- ・ 要保護児童対策地域協議会への参加

## 7. その他

### その他取り組み

特になし